

令和 8 年度 岡山市地方創生市民会議

日時：令和 8 年 8 月 2 6 日（水） 1 0 時 0 0 分～

場所：岡山市役所本庁舎 3 階 第 1 会議室

次 第

1 開会

2 資料説明及び意見交換

- （１）第 2 期岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略における成果指標の結果報告について
- （２）第 3 期岡山市地方創生総合戦略の概要について
- （３）その他

3 閉会

第2期岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略における成果指標の結果報告について

資料1

第2期岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和3年度から令和7年度まで）5年間における成果指標の達成状況について評価を実施

- 第2期総合戦略の取組を着実に推進した結果、現時点で評価可能な33の指標（※）のうち、9割近い29の指標で目標達成または上昇となった。
- 一方で、コロナ禍を経ての生活様式の変化等の理由により、4の指標で低下となった。
- 第3期総合戦略においても、PDCAサイクルの考え方に基づいた進行管理を行い、達成状況等を勘案しながら、見直しや重点化を図り、予算編成に反映することで戦略を着実に推進していく。

基本目標	◎ 目標達成	○ 上昇	× 低下	合計
1 岡山市の強みを活かし、安定した雇用と活力を創出する	5	1	2	8
2 岡山市への新しいひとの流れをつくる	4	0	0	4
3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	2	3	1	6
4 安全・安心に暮らせるまちをつくり、地域と地域を連携する	5	9	1	15
計	16 (49%)	13 (39%)	4 (12%)	33

※第2期戦略の成果指標は全体で43指標あり、現時点で評価不能な指標10指標。
（内訳）現時点で実績値の確認ができないため評価不能な指標・・5指標
調査方法の変更等により評価不能となった指標・・5指標

《評価基準》 ◎「目標達成」
○「上昇」 基準値に対し上昇
×「低下」 基準値に対し低下

（参考）新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）を活用した事業に係る検証概要

令和7年度の成果指標の達成状況
… 7指標 / 14指標（50.0%）

- 一部に未達成の指標もあるが、全体としては目標達成に向けて堅調に推移している。

＜ソフト事業の活用事業＞	達成状況
岡山市版スタートアップ・エコシステム形成によるスタートアップ創出事業	2指標達成 / 4指標
岡山市版イノベーション創出拠点形成事業	2指標達成 / 4指標
デジタル技術を活用した健康習慣の定着化事業	2指標達成 / 4指標
XRを活用した岡山城魅力アップ事業	令和7年度は事業の準備・構築期間のため、成果指標の設定は行っていない。
「新たな倭国論」情報発信事業	
鎮護国家の薨を生んだ「万富東大寺瓦窯跡」情報発信事業	
＜拠点整備事業の活用事業＞	達成状況
高松城址公園を中心とした歴史・観光拠点整備事業	1指標達成 / 2指標

第2期岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略における成果指標の結果報告について①

基本目標1 岡山市の強みを活かし、安定した雇用と活力を創出する

	指標名(単位)	基準値 (R1)	実績値 (R7)	目標値 (R7)	達成 状況
数値目標	企業立地・再投資件数(件)	60 H28～R1 の合計	128 H28～R7 の合計	116 H28～R7 の合計	◎
	市内企業における管理職(課長相当 職以上)に占める女性の割合(%)	7.7 (H30)	15.6	15	◎
重要業績指標	市の創業支援による創業者数(者)	22 (H30)	186	50	◎
	企業立地・再投資件数(件) 【再掲】	60 H28～R1 の合計	128 H28～R7 の合計	116 H28～R7 の合計	◎
	観光客数(千人)	7,575	今後 公表予定	9,487	—
	観光客数(千人) 【再掲】	7,575	今後 公表予定	9,487	—
	コンベンション参加者数(人)	162,348	138,695	207,000	×
	新規就農者数(人)	34	30	50	×

	指標名(単位)	基準値 (R1)	実績値 (R7)	目標値 (R7)	達成 状況
重要業績指標	生涯かつやく支援センターが就労に結 び付けた人数(人)	26	887 R3～R7 の合計	750 R3～R7 の合計	◎
	授業でコンピュータなどのICTを毎日 使用する子どもの割合(%)	小:5.6 中:3.8	小:56.2 中:42.2	小:100 中:100	○

基本目標2 岡山市への新しいひとの流れをつくる

	指標名(単位)	基準値 (R1)	実績値 (R7)	目標値 (R7)	達成 状況
数値目標	移住定住支援により移住した人数 (人)	30	169	90	◎
重要業績指標	移住定住支援により移住した人数 (人) 【再掲】	30	169	90	◎
	生涯かつやく支援センターが就労に 結び付けた人数(人) 【再掲】	26	887 R3～R7 の合計	750 R3～R7 の合計	◎
	若者(20歳代)の地域活動への参加 割合(%)	20.1	25.2	25.1	◎

第2期岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略における成果指標の結果報告について②

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

	指標名(単位)	基準値 (R1)	実績値 (R7)	目標値 (R7)	達成 状況
数値目標	子育てしやすいまちと思う保護者の割合(%)	54.4 (H30)	57.2 (R5)	65 (R5)	○
	保育所等の待機児童数(人)	259 (R2.4.1)	0 (R8.4.1)	0 (R8.4.1)	◎
	放課後児童クラブの入所希望児童(潜在ニーズを含む見込み)に対する入所出来た児童の割合(%)※1	77.3 (R2.4.1)	100 (R8.4.1) ※参考値	100 (R8.4.1)	—
重要業績指標	保育所等の待機児童数(人)【再掲】	259 (R2.4.1)	0 (R8.4.1)	0 (R8.4.1)	◎
	放課後児童クラブの入所希望児童(潜在ニーズを含む見込み)に対する入所出来た児童の割合(%)※1【再掲】	77.3 (R2.4.1)	100 (R8.4.1) ※参考値	100 (R8.4.1)	—
	心豊かな岡山っ子応援団賛助団体員(団体)	69	64	90	×
	子育てしやすいまちと思う保護者の割合(%)【再掲】	54.4 (H30)	57.2 (R5)	65 (R5)	○
	仕事と家庭の両立支援に取り組んでいる企業の割合(%)	45.5 (H30)	65.9	70.6	○

基本目標4 安全・安心に暮らせるまちをつくり、地域と地域を連携する

	指標名(単位)	基準値 (R1)	実績値 (R7)	目標値 (R7)	達成 状況
数値目標	居住誘導区域内人口密度(人/ha)	58.4 (H27)	今後 公表予定	59.6	—
	健康寿命(歳) 上段:男性 下段:女性	71.6 74.3 (H28)	72.3 74.3 (R4)	72.6 76.2 (R4)	○
重要業績指標	居住誘導区域内人口密度(人/ha)【再掲】	58.4 (H27)	今後 公表予定	59.6	—
	JR岡山駅乗降客数(1日当たり)(万人)	13.9	14.1	14.3	○
	自宅から都心や身近な拠点に公共交通で30分以内に行ける人口(万人)	30.3 (H27)	今後 公表予定	36.1	—
	生活交通導入地区数(試行運転開始地区を含む)(地区)	3	9	8	◎
	中心市街地の歩行者通行量(人)※2 上段:平日 下段:休日	4,324 5,654 (H29)	6,604 8,814 ※参考値	4,400 5,700	—
	JR岡山駅乗降客数(1日当たり)(万人)【再掲】	13.9	14.1	14.3	○
	中心市街地の歩行者通行量(人)※2 上段:平日 下段:休日 【再掲】	4,324 5,654 (H29)	6,604 8,814 ※参考値	4,400 5,700	—

※1 令和7年3月に策定された岡山市子ども計画において、待機児童0人を目標とする新たな成果指標を設定したため、参考値とする

※2 数値の取得方法が変更となったため、参考値とする

第2期岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略における成果指標の結果報告について③

基本目標4 安全・安心に暮らせるまちをつくり、地域と地域を連携する

	指標名(単位)	基準値 (R1)	実績値 (R7)	目標値 (R7)	達成 状況
重要業績指標	過去1年間に文化芸術を体験(参加・鑑賞)した人の割合(%)	57.3	63.5	65.0	○
	都市としての便利さと自然の豊かさとの調和の満足度(%)	37.8	63.8	39.3	◎
	健康寿命(歳) 上段:男性 下段:女性 【再掲】	71.6 74.3 (H28)	72.3 74.3 (R4)	72.6 76.2 (R4)	○
	生涯かつやく支援センターが就労に結び付けた人数(人)	26	887 R3～R7 の合計	750 R3～R7 の合計	◎
	認知症サポーター数(人)	52,565	80,802	75,000	◎
	生活・介護支援サポーター養成数(人)	1,362	2,003	2,080	○
	自主防災組織率(%)	92.2	96.6	100	○
	地域活動への参加割合(%)	45.3	44.2	50.8	×

※3 数値の算定手法が変更となったため、参考値とする

	指標名(単位)	基準値 (R1)	実績値 (R7)	目標値 (R7)	達成 状況
重要業績指標	企業・NPO法人等が参加した安全・安心ネットワーク数(団体)	40	48	65	○
	ESDプロジェクト参加団体数(団体)	307	409	405	◎
	温室効果ガス排出量(千t・CO2)※3	6,119 (H29暫定)	4,999 (R5暫定) ※参考値	5,141 (R5)	—
	汚水処理人口普及率(%)	84.2	87.5	90	○

新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）

〔 地方創生推進タイプ／旧地方創生推進交付金
地方創生拠点整備タイプ／旧地方創生拠点整備交付金 〕

活用事業等 効果検証

政策局政策部政策企画課

(1) 第2世代交付金（地方創生推進タイプ／旧地方創生推進交付金）

事業名	岡山市版スタートアップ・エコシステム形成によるスタートアップ創出事業
-----	------------------------------------

担当局	産業観光局
-----	-------

事業概要

実施年度	R4年度～R8年度（5カ年）
------	----------------

単位：円	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
歳出（事業費）	67,807,260	81,600,000	99,715,968	54,400,000	54,400,000
歳入（交付金）	(33,903,630)	(40,800,000)	(48,960,000)	(27,200,000)	

全体事業の概要	【事業の背景】 岡山市では、「岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の具体的な施策として「新たな雇用と成長を促す戦略的な産業振興」を掲げ、「創業・起業支援」「市内中小企業の競争力強化」「企業誘致の推進」の3本柱に取り組んでいる。 新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、価値観や行動様式が変化する中、イノベーションの必要性がこれまで以上に重要になっており、その担い手であるスタートアップの創出をより促進していくための支援は必要性、緊急性ともに高い状態にある。 イノベーションを伴い、新たな市場を開拓することで、短期間で飛躍的な成長を目指すスタートアップについては、2019年8月1日にスタートアップ支援拠点「ももたろう・スタートアップカフェ（ももスタ）」を開設する等、中四国地方の市町村単位で唯一、スタートアップ支援事業に特化した形で取り組んでおり、スタートアップが生まれる素地が出来てきている。 【全体事業の概要】 ○岡山市版スタートアップエコシステムの形成を促進することで、スタートアップが継続して生まれる好循環をつくる。 ○スタートアップが継続して生まれ、増加することにより、 ①イノベーションと新規雇用が創出される ②イノベーションを伴った事業を生み出し、新たな市場の開拓、外貨の獲得、地域のデジタル化、市民生活の向上へ寄与する ③地域経済が活性化されることによる市民の所得増、税収増 ④起業しやすい街となることでの若年層の定住率の向上 が見込まれ、その結果、地域経済の活性化、人口増加の好循環を生み出すことを目指すもの。
令和7年度の事業内容	ももスタを中心とした「岡山版スタートアップ・エコシステム」を形成し、その中で、様々なステークホルダーが自発的に関わることが出来るコミュニティの形成に向けた支援、環境づくりを行う。 1 スタートアップ支援拠点運営事業 官民連携組織によりスタートアップ支援拠点「ももたろう・スタートアップカフェ（ももスタ）」を運営し、起業家や投資機関などのステークホルダーのコミュニティ形成を図る。 2 スタートアップ支援事業 （1）起業家の掘り起こし等に繋がるイベント開催、起業家創出・事業成長のための集中支援 （2）次世代を担う起業家の創出を促進するため、中高生を対象に起業家精神の情勢を図るプログラムの実施 （3）ノーコードツール活用スキル習得により、ビジネスアイデアをプロダクト開発まで昇華させるプログラムの実施 （4）スタートアップの成長の鍵となる資金調達環境の強化を目的としたプログラムの実施 （5）スタートアップと市が協働し、行政・社会課題の解決に取り組むプログラムの実施

KPIの進捗状況

指 標 名	市の創業支援による創業者数（人）						
年 度	事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	累計
目 標 値	30	5	5	10	5	5	30
実 績 値	30	15	29	59	53		156

指 標 名	ももスタで開催されるイベントへの参加者数（人）						
年 度	事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	累計
目 標 値	500	500	600	1,000	100	100	2,300
実 績 値	－	745	1,390	1,479	0		3,614

指 標 名	ベンチャーキャピタル等から投資が行われたスタートアップ企業数（社）						
年 度	事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	累計
目 標 値	－	3	3	3	3	3	15
実 績 値	－	3	1	0	2		6

指 標 名	市の創業支援による創出された新規事業数（件）						
年 度	事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	累計
目 標 値	－	-	5	5	5	5	20
実 績 値	－	-	5	5	5		15

検証・見直し方針

KPIの進捗状況 の検証	地方創生に効果があった 令和7年度は市の創業支援による創業者数については、大幅に目標値を超過達成している。イベント参加者数については、令和6年度からの増加数としては目標値に達していないが、令和6年度は4,114人、令和7年度は3,988人と高い水準で参加者数は推移している。 ベンチャーキャピタル等からの投資については、本市で把握している件数としては令和7年度は6件あったが、増加数としては目標未達。ただし、ベンチャーキャピタル等からの投資については、長期的な視点が必要な指標であり、継続的な支援を続けていく。 市の創業支援による創出された新規事業数については目標を達成しており、令和8年度も継続して取り組んでいく。 4項目のKPIの達成状況を総合的にとらえると、市内におけるスタートアップが創出される土壌は着実に成長している。あわせて、令和7年6月より、岡山市や内閣府により第2期スタートアップ・エコシステム拠点都市に採択されており、産官学金言と連携したスタートアップ・エコシステムの構築が年々厚みを増している。
	追加等さらに発展させる スタートアップ支援に繋がるイベントやプログラムを前年度同様多角的に開催により、起業に関心を持つ層の裾野の拡大や起業家の事業成長（高さ）に一定の効果があったものとする。 令和7年度からスタートアップの成長と地域企業との協業を目的としたシンポジウム「岡山スタートアップスクラム」を開催し、良質な交流の活性化等を図ることにより、イノベーション創出を支援する取り組みを実施した。 今後はグローバル展開を目指すスタートアップを増やしていけるよう、成長支援策にも今以上に注力していく。併せてももスタがハブとなり、スタートアップを取りまくステークホルダーの持つリソースやアセットを十分活用できる環境づくりに取り組んでいく。
新年度事業見直し方針等	

事業名	岡山市版イノベーション創出拠点形成事業
担当局	産業観光局

事業概要

実施年度	R6年度～R8年度（3カ年）		
単位：円	R6年度	R7年度	R8年度
歳出（事業費）	19,996,000	20,000,000	20,000,000
歳入（交付金）	(9,498,000)	(9,498,000)	

全体事業の概要	地方版総合戦略「基本目標 1 岡山市の強みを活かし、安定した雇用と活力を創出する」を実現するため、地域初のイノベーション拠点を形成し、そこに参画する様々な属性のプレイヤーに対する支援を通じてイノベーションが連続して生まれる環境を作り出すことで、岡山市を「イノベーション創出都市」として発信していく。 また、こうしたイノベーションの創出により新たな価値を伴った事業が生み出されることにより、地域経済の活性化やイノベーションが創出される街のブランディングにより、若年層の定住率の向上や労働人口の増加等の地域課題の解決を目指す。
令和7年度の事業内容	・様々な属性のプレイヤーが集まる拠点をJR岡山駅近辺に形成するとともに、拠点到コミュニティマネージャーを配置し、イノベーションの創出に意欲のあるプレイヤーによるコミュニティを形成する。 ・拠点においてイノベーション創出に必要な基礎的なノウハウやデジタル先進技術を習得する機会を提供することでイノベーション創出に取り組む人材を育成する。また、形成されたコミュニティを活性化するための交流会やマッチングを行い、イノベーション創出を加速させる。 ・イノベーション創出の可能性が高いアトツギについては岡山県商工会連合会広域サポートセンターと連携して独自の支援プログラムを実施し、集中的に成長を支援するとともに、前述のコミュニティの中心的存在としてイノベーション創出を牽引させる。

KPIの進捗状況

指標名	地域における新規雇用者数				
年度	事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	累計
目標値	40	5	5	5	15
実績値	－	93	53		146

指標名	イノベーション創出拠点年間のベ利用者数				
年度	事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	累計
目標値	－	1,000	250	250	1,500
実績値	－	1,208	99		1,307

指標名	イノベーション創出拠点で開催されるイベント・プログラム年間の参加者数				
年度	事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	累計
目標値	－	200	50	50	300
実績値	－	432	0		432

指標名	中小企業庁主催「アトツギ甲子園」エントリー数				
年度	事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	累計
目標値	8	2	2	2	6
実績値	－	0	5		5

検証・見直し方針

KPIの進捗状況 の検証	地方創生に効果があった 令和6年度は地域における新規雇用者数は目標値を超過達成しており、本事業に関する支援策が一定以上の効果があったことがうかがえる。 イノベーション創出拠点年間のべ利用者数については目標値に達していないが、実数としては349人のべ参加者となっており高い水準で推移している。 イノベーション創出拠点で開催されるイベント・プログラム年間のべ参加者数については目標値に達していないが、令和7年度においても354人の参加者があり、高い水準で推移している。 中小企業庁主催「アトツギ甲子園」エントリー数についても、令和7年度はエントリー数が増えており、岡山地域のアトツギ当事者や支援機関の熱量及び地元企業等への認知度の高まりが結果に表れた。
新年度事業見直し方針等	追加等さらに発展させる イノベーション創出に繋がるイベントやプログラムの開催により、起業に関心を持つ層の裾野の拡大や実際に起業に至る等一定の効果があったものと考えており引き続き支援を行っていく。また、イノベーション拠点利用者による持ち込みイベントも徐々に増えており、様々なステークホルダーによる刺激の輪も広がりを見せている。 アトツギ支援については、上記の通りアトツギ当事者や支援機関の熱量を一時的なものに終わらせないためにも、交流イベントや連続プログラムの拡充を行うなどし、裾野拡大と事業成長の両軸から支援を行っていく。

事業名	デジタル技術を活用した健康習慣の定着化事業
-----	-----------------------

担当局	保健福祉局
-----	-------

事業概要

実施年度	R5年度～R9年度（5カ年）
------	----------------

単位：円	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
歳出（事業費）	61,070,000	49,716,375	50,967,000	50,967,000	50,967,000
歳入（交付金）	(29,823,858)	(24,858,187)	(24,256,080)		

全体事業の概要	健康とは、病気や障害がない状態のことではなく、病気や身体的な課題の有無に関わらずそれぞれが生きがいを持ち、よりよく生きることであると捉えた岡山市の目指す将来像に向けて、従来から実施してきた「健康ポイント事業」を継続する。「運動」「栄養・食生活」「社会参加」の活動にポイントを付与し、インセンティブによって行動変容を図る、という基本的な構成を引継ぎつつ、参加者の利便性向上のため、スマートフォン向けアプリケーションを使用するなど、デジタル技術を活用した生活習慣の定着化事業を実施する。
令和7年度の事業内容	日常生活の中で無理なく健康的な生活習慣に取り組めるよう、参加申し込み、ポイントの獲得、交換などをスマホアプリに一本化し、アプリの中で広く健康に寄与すると考えられるものに対しポイントを付与する。また、ためたポイントは抽選で特典と交換できるようにする。さらに、健康分野だけでなく、まちづくり事業など様々な施策や民間事業者の取り組みもポイント付与対象とし、多角的に健康的な生活習慣の定着を図る。

KPIの進捗状況

指 標 名	医療費抑制効果額（千円）						
年 度	事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	累計
目 標 値	－	35,000	87,500	105,000	115,000	70,000	412,500
実 績 値	－	95,519	85,099	34,110			214,728

指 標 名	健康習慣の定着率（％）						
年 度	事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	累計
目 標 値	40.00	4.00	3.00	3.00	2.00	1.00	13.00
実 績 値	－	28.57	0.88	▲ 12.59			16.86

指 標 名	市民のヘルスケア推進に寄与するサービスを提供する店舗の数（箇所）						
年 度	事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	累計
目 標 値	130.00	70.00	50.00	50.00	50.00	50.00	270.00
実 績 値	－	281.00	260.00	244.00			785.00

指 標 名	アプリ相談会の総参加者数（人）						
年 度	事業開始前	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	累計
目 標 値	－	240.00	120.00	120.00	120.00	120.00	720.00
実 績 値	－	739.00	223.00	200.00			1,162.00

検証・見直し方針

KPIの進捗状況 の検証	地方創生に効果があった 事業3年目で、事業委託先との契約との最終年度となった。医療費抑制効果と健康習慣の定着率については、目標に達しなかったが、店舗数や相談会の総参加者数については目標を超えており一定の効果はあったと考えられる。
新年度事業見直し方針等	事業の継続 令和7年度末で事業委託先との契約が終了したため、令和8年度～9年度の契約期間で企画競争入札により新たに事業者を選定し事業を実施する。 医療費抑制効果と健康習慣の定着化の目安としている週2回以上のポイント獲得が減少し、目標未達成であったことを踏まえ、参加者が継続して利用する工夫を盛り込む。また、市民のヘルスケア推進に寄与する民間事業者の増加に向け、引き続き取り組んでいく。

事業名	XRを活用した岡山城魅力アップ事業
担当局	産業観光局

事業概要

実施年度	R7年度～R9年度（3カ年）		
単位：円	R7年度	R8年度	R9年度
歳出（事業費）	27,000,000	23,300,000	12,000,000
歳入（交付金）	(13,486,000)		

全体事業の概要	江戸時代最盛期の岡山城をCGデータで再現し、VR動画、周遊型コンテンツ、戦国期からの変遷を示すパネル等を制作し、海外も含めた情報発信を行うことにより、観光客数及び観光消費額の増加を図る。
令和7年度の事業内容	■CGデータによる復元と継承、VR動画の制作 「歴史を伝える城、集う城」のコンセプトのもと、宇喜多秀家公が残した天守の姿と、江戸時代最盛期の本丸の姿をデジタル技術により再現することで、城のさらなる魅力アップを図り観光誘客につなげることを目的としたもの。 豊臣政権の有力大名であったことがうかがえる金箔瓦をあしらった1597年の築城当時の天守を高精細の3DCGで再現したほか、元禄時代の実測図や戦前の古写真などを根拠資料とし、多くの櫓や建物が集積した江戸時代の岡山城の威容を復元。さらにVR技術を用いて、細部の作りや遠景、俯瞰視点など様々な角度から描写し、現在は見ることでない往時の建造物が居並ぶ姿が堪能できる15分弱の動画に仕上げたもの。令和8年7月3日から岡山城天守にて公開開始。

KPIの進捗状況

指 標 名	岡山市内の観光消費額（千円）				
年 度	事業開始前	R7年度	R8年度	R9年度	累計
目 標 値	82,128,489	－	8,249,062	16,498,124	24,747,186
実 績 値	－	－			0

指 標 名	岡山城天守入場者数（人）				
年 度	事業開始前	R7年度	R8年度	R9年度	累計
目 標 値	438,327	－	11,296	22,592	33,888
実 績 値	－	－			0

指 標 名	インバウンドの岡山城天守入場者数（人）				
年 度	事業開始前	R7年度	R8年度	R9年度	累計
目 標 値	56,248	－	1,450	2,899	4,349
実 績 値	－	－			0

検証・見直し方針

KPIの進捗状況 の検証	
新年度事業見直し方針等	事業の継続 特段の見直し予定なし。R 8 は当初の予定通り、R 7 作成の動画の公開を開始するほか、動画を利活用したSNS等での周知広報を実施予定。併せて、V R 映像を活用し、城内周遊型のA R コンテンツを作成

事業名	「新たな倭国論」情報発信事業
担当局	産業観光局

事業概要

実施年度	R7年度～R9年度（3カ年）		
単位：円	R7年度	R8年度	R9年度
歳出（事業費）	20,000,000	9,900,000	8,800,000
歳入（交付金）	(9,993,500)		

全体事業の概要	・5世紀初頭、造山古墳に象徴される強大な勢力を誇った古代吉備が、大和と協力して倭国を統治していたとする「新たな倭国論」の認知度向上及び造山古墳を含む吉備路エリアの魅力向上のため、デジタル技術を活用した体験型コンテンツの制作等を行い、観光客数や観光消費額の増加を図るとともに、地域の活性化につなげる。 ・デジタル技術を活用し、往時の様子を再現するコンテンツを制作し、訪問者のコンテンツ体験を通じて、造山古墳を含む古代吉備に関する史跡の歴史的価値や文化的背景に触れる機会を提供する。
令和7年度の事業内容	造山古墳と陪塚の築造当時の姿を高精細CGでリアルに再現したVR動画を制作。どのような工程を経て造山古墳が築かれ、大和王権に並ぶ権力を持つに至ったのか、そこで生きた人々の営みの様子を交えながら、没入感のあるVR動画にして造山古墳ビジターセンター、岡山市公式YouTube等で放映。 VR動画タイトル「今、解き明かされる古代吉備の繁栄～吉備と大和の二頭政治～」(12分3秒)

KPIの進捗状況

指 標 名	岡山市観光消費額（千円）				
年 度	事業開始前	R7年度	R8年度	R9年度	累計
目 標 値	82,128,489	－	12,373,593	12,373,593	24,747,186
実 績 値	－	－			0

指 標 名	造山古墳ビジターセンター来館者数（人）				
年 度	事業開始前	R7年度	R8年度	R9年度	累計
目 標 値	16,822	－	4,386	4,386	8,772
実 績 値	－	－			0

指 標 名	観光地域別観光客数（岡山市・吉備路）（人）				
年 度	事業開始前	R7年度	R8年度	R9年度	累計
目 標 値	810,000	－	75,000	75,000	150,000
実 績 値	－	－			0

検証・見直し方針

KPIの進捗状況 の検証	
新年度事業見直し方針等	事業の継続 令和 7 年度に制作したVR動画の更なる周知に加え、令和 8 年度は、築造当時の造山古墳の威容を現地で体験できるARコンテンツを新たに制作し、その歴史的価値や魅力を広く発信すると共に、観光客の現地への誘客及び市民の郷土への愛着や誇りの醸成を図る。

事業名	鎮護国家の礎を生んだ「万富東大寺瓦窯跡」情報発信事業
担当局	産業観光局

事業概要

実施年度	R7年度～R8年度（2カ年）	
単位：円	R7年度	R8年度
歳出（事業費）	21,700,000	14,000,000
歳入（交付金）	(10,097,000)	

全体事業の概要	・鎌倉時代、東大寺再建という国家プロジェクトにおいて重要な役割を担った万富東大寺瓦窯跡の歴史的価値や文化的背景及び瓦窯跡を含む瀬戸・上道エリアの魅力向上のため、デジタル技術を活用した体験型コンテンツの制作等を行い、観光客数や観光消費額の増加を図るとともに、地域の活性化につなげる。 ・具体的には、デジタル技術を活用し、往時の様子を再現するコンテンツを制作し、訪問者のコンテンツ体験等を通じて、史跡万富東大寺瓦窯跡の歴史的価値や文化的背景に触れる機会を提供する。
令和7年度の事業内容	1.万富東大寺瓦窯跡AR等制作事業 史跡万富東大寺瓦窯跡を周知し、来訪してもらう仕組みとして、スマートフォン等を使用し、当時の瓦窯の様子を現地の風景に重ねて表示できるARコンテンツを制作した。また、1分のPR動画を作成し、岡山市公式YouTubeやデジタルサイネージ等で放映している。 2. 東大寺サミットイベントの開催 令和9年1月24日に岡山市で開催される東大寺サミットに向けて、令和7年7月13日に「東大寺サミットイベント」を開催した。有識者によるシンポジウムのほか、地元中学生による学習発表などを行い、史跡万富東大寺瓦窯跡について市民に周知した。

KPIの進捗状況

指標名	岡山市観光消費額（千円）			
年度	事業開始前	R7年度	R8年度	累計
目標値	82,128,489	－	24,747,186	24,747,186
実績値	－	－		

指標名	観光地域別観光客数（瀬戸・上道）（人）			
年度	事業開始前	R7年度	R8年度	累計
目標値	190,000	－	8,000	8,000
実績値	－	－		

指標名	観光ボランティアガイド活動回数（人）			
年度	事業開始前	R7年度	R8年度	R9年度
目標値	15	－	4	4
実績値	－	－		

検証・見直し方針

KPIの進捗状況 の検証	
新年度事業見直し方針等	事業の継続 令和7年度ARコンテンツ制作時の高精度CGデータを使用したVR動画を制作し、東大寺サミットをはじめ、岡山市公式YouTubeや市関係施設で放映する。その他、史跡の紹介や東大寺サミットを紹介する媒体を作成予定。東大寺サミット開催を契機とし、歴史に詳しい方だけでなく、歴史に詳しくない方にも現地を訪れてもらえるよう、引き続き情報発信に努める。

(2) 第2世代交付金（地方創生拠点整備タイプ／旧地方創生拠点整備交付金）

事業名	高松城址公園を中心とした歴史・観光拠点整備事業
担当局	都市整備局

事業概要

実施年度	R4年度
------	------

単位：円	R4年度
歳出（事業費）	72,796,588
歳入（交付金）	(34,312,182)

全体事業の概要	○岡山市は豊富な歴史・文化資源に恵まれており、国指定史跡数は18であり、政令指定都市の中では、京都市に次いで2番目となっている。市の中心部には岡山城や岡山後楽園、周辺地域には造山古墳（全国第4位の規模の前方後円墳）を始め、吉備津神社や吉備津彦神社等の全国有数の歴史・文化資源があり、これらの周辺地域の歴史・文化資源をストーリーとした「桃太郎伝説の生まれたまち おかやま」は日本遺産に認定されている。 ○周辺観光の観光客数は888千人（令和2(2020)年）となっており、後楽園・岡山城周辺の観光客数907千人と同等の観光客数となっており、周辺観光は岡山市の観光にとって必要な位置づけとなっている。 ○岡山市の観光入込客数は、平成28（2016）年の8,297千人をピークに横ばいとなっている。さらに、令和2(2020)年1月より世界中で広がった新型コロナウイルス感染症の影響で観光客数は激減し、特に、新型コロナウイルス感染症流行前に増加傾向にあったインバウンドに関して、令和2（2020）年8月では、流行前の平成30（2018）年同月比と比較して約99%の減少となっている。 ○歴史の転換期となる「高松城の水攻め」で有名な、高松城址公園周辺には、高松城址本丸、清水宗治の首塚、水攻築堤跡等の遺跡が残っており、周遊観光における重要な観光資源であり、この資源を活用した観光商品の開発とPRを行い、さらに、高松城址公園に訪れた観光客を、その他の周辺観光や岡山城等への観光に繋げることで、岡山市全体の観光客の増加、特に滞在型観光客の増加を目指す。これらを戦略的に行うことで、新型コロナウイルス感染症の影響で大きく落ち込んだ観光業等（交通機関・宿泊施設・飲食業・観光施設・土産店等）を早急に回復させ、地域の雇用や、経済の回復、そして、更なる地域経済の活性化を目指す。
事業内容	「高松城址公園資料館新築事業」 ○既存の資料館をリニューアルすることで資料館自体の集客を増やすとともに、周辺の観光情報の継続的な発信を行うことで、広域周遊観光の促進を図る。 ○高松城址の概要紹介パネル（高松城の水攻めの様子や時代背景等）を作成するとともに、出土品や歴史資料を効果的に展示することにより、来館者に対して高松城址公園及び日本遺産の魅力を発信する。 ○新設する資料館に液晶案内モニター、椅子等を設置し、日本遺産構成文化財の中心的役割を担う施設として充実させる。また、小学校の校外学習に活用し、子どもたちの郷土愛の醸成を図る。

KPIの進捗状況

指標名	観光客数（岡山市吉備路）（人）						
年度	事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	累計
目標値	960,000	—	970,000	980,000	995,000	1,010,000	3,955,000
実績値	—	—	810,000	817,000	840,000	—	2,467,000

指標名	高松城址公園資料館来館者数（人）						
年度	事業開始前	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	累計
目標値	10,000	—	11,000	12,500	14,500	17,000	55,000
実績値	—	—	20,500	27,600	26,300	—	74,400

検証・見直し方針

KPIの進捗状況の検証	地方創生に非常に効果的であった 和5年6月4日にリニューアルオープンをし、令和6年度の資料館来館者数は令和2年度の約3倍となり、事業効果の成果はあがっている。リニューアルは地域観光の促進に貢献しているものと考えている。
新年度事業見直し方針等	事業の継続 高松城址公園資料館来館者数の5ヶ年目標値である7,000人増加を、令和5年度の1年間で達成することができた。今後は展示替え等を適宜実施し、資料館来館者数を増やすことで、吉備路全体の観光客数増加を図っていく。

第3期岡山市地方創生総合戦略

令和8年3月

岡 山 市

目 次

I 岡山市地方創生総合戦略の基本的な考え方

1 枠組み	1
（1）位置づけ	1
（2）期間	1
（3）進行管理	1
2 これまでの取組	1
3 第3期総合戦略のめざす姿	3
（1）岡山市人口の将来見通し	3
（2）方向性と基本目標	4

II めざす方向と具体的施策

基本目標1 愛着と誇りをもち、安心して働き暮らせるまちをつくる

（1）子ども・若者が輝き、安心して子育てができるまちづくり	8
（2）多様な主体による活力ある地域づくり	9
（3）若者や女性にも選ばれるまちづくり	10
（4）健康寿命の延伸と豊富な医療・介護資源をいかした地域づくり	11
（5）安全・安心に暮らせるまちづくり	12
（6）将来を見据えた持続可能なまちづくり	13

基本目標2 まちの「稼ぐ力」を高め、魅力と活力あふれるまちをつくる

（1）地域経済の活性化を促進する産業の振興	23
（2）歴史・文化・スポーツ等をいかした新たな価値と魅力の創出や観光誘客の促進	24
（3）持続可能で活力ある農林水産業の振興	26

基本目標3 岡山市への新たな人の流れをつくる

（1）拠点性をいかした企業等の誘致	32
（2）大学や経済界等との連携	32
（3）移住・定住の推進	33
（4）関係人口の創出・拡大	33

基本目標4 デジタルなどの新技術の活用や広域連携を推進する

（1）DXの推進	35
（2）圏域をリードする広域連携の推進	36

参考

1. 第3期総合戦略とSDGs目標の関連一覧表	38
2. 対応表	39
2-1 第3期総合戦略と岡山市第七次総合計画後期中期計画との対応表	39
2-2 第3期総合戦略と国の地方創生に関する総合戦略との対応表	40
3. 人口ビジョン	41
3-1 岡山市の人口の現状分析	41
3-1-1 国及び県の人口動向	41
(1) 我が国の人口推移と長期的な見通し	41
(2) 岡山県の人口推移と将来の見通し	41
3-1-2 岡山市の人口分析	42
(1) 人口推移と将来の見通し	42
① これまでの人口推移	42
② 外国人人口の推移	42
③ 将来の見通し	43
④ 人口動態の推移	46
(2) 自然動態	49
① 非婚化・晩婚化の進行	49
② 出生数の推移	50
③ 合計特殊出生率の推移	51
(3) 社会動態	52
① 純移動の推移	52
② 年齢階級別の純移動の推移	53
③ 県内外への純移動の状況	56
3-1-3 人口減少が与える影響	58
3-2 岡山市の人口の将来展望	59
3-2-1 めざすべき将来の方向の基礎となる市民の意識等	59
(1) 結婚・出産・子育てに関する市民意識	59
(2) 居住地や仕事に関する学生アンケート	60
3-2-2 岡山市人口の将来展望	64
(1) 将来人口推計	64
① 推計パターン	64
② 推計結果	64
③ 人口の将来展望	65
(2) 将来の年齢3区分別人口推計	65
① 年齢3区分別人口比率	65
② 年齢3区分別人口	66

I 岡山市地方創生総合戦略の基本的な考え方

1. 枠組み

(1) 位置づけ

第3期岡山市地方創生総合戦略(以下、第3期総合戦略という)は、国の「地方創生に関する総合戦略」を勘案しつつ、「岡山市第七次総合計画前期中期計画」と整合性をとりながら、活力ある地域社会の実現を図ることをめざす。

なお、第3期の策定に際し、名称を「岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」から「岡山市地方創生総合戦略」に変更する。

(2) 期間

令和8(2026)年度から令和12(2030)年度までの5年間

(3) 進行管理

第3期総合戦略では、5年間の取組に対する政策分野の基本目標に係る数値目標と、それぞれの具体的な施策についての重要業績評価指標(KPI)を設定し、毎年度評価、公表するとともに、検証・改善を図る仕組みとしてPDCAサイクルを運用する。

また、住民代表や産官学金労言士などで構成する推進組織である「岡山市地方創生市民会議」や市議会による検証も実施しながら、必要に応じて施策や事業の追加、見直し等を行い、第3期総合戦略の改訂を行っていく。

2. これまでの取組

平成27年10月に策定した岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下、第1期総合戦略という)においては、「岡山市の強みをいかし、安定した雇用と活力を創出する」「岡山市への新たな人の流れをつくる」「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「安全・安心に暮らせるまちをつくり、地域と地域を連携する」という4つの基本目標の達成に向けて、国の交付金等を活用しながら取り組んだ。

また、令和3年4月に策定した第2期岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下、第2期総合戦略という)においても、第1期総合戦略で掲げた4つの基本目標を引き継ぎ、その上で、地方創生に資する施策をより深化・発展させる取組を実施してきた。

【基本目標1】

- 地域経済の持続的成長を目指し、「市内企業の成長支援」、「新たな事業を生み出す支援」、「外から呼び込む企業誘致」を施策推進の柱として、市内企業の事業成長と経営基盤の強化を支援するとともに、起業・創業しやすい環境づくりや拠点性をいかした企業立地を推進してきた。

- ・市の創業支援による創業者数
22 件(H30) → 133 件(R 6)(目標値達成)
- ・企業立地・再投資件数(累計)
60 件(H28~R 1) → 108 件(H28~R 6)(概ね順調に推移)
- 「文化財と観光の融合」をテーマに岡山市固有の歴史・文化遺産を観光的な視点を踏まえて磨きあげ、分かりやすく発信し、観光・インバウンド誘客を促進するとともに、コンベンション開催支援体制の強化等により、国際会議等の誘致を推進した。

【基本目標 2】

- 地方移住への関心の高まりに対応するべく、ニーズに即した移住支援を実施。就職支援を核とした移住相談窓口として、「おかやまぐらし相談センター」を東京、大阪に設置するとともに、きめ細やかなメニューによる支援を充実してきた。
- ・移住定住支援により移住した人数
30 人(R1) → 152 人(R6)(目標値達成)

【基本目標 3】

- 希望する誰もが安心して子どもを生み育てることができるよう、保育の待機児童ゼロの実現をはじめとする仕事と子育ての両立のための環境づくりを積極的に推進した。また、子育てに対する負担感や不安感をやわらげるため、子ども医療費助成の拡充などによって子育て家庭の経済的負担の軽減を図るとともに、妊娠期から乳幼児期までの母子の健康づくりや、困難を抱える子どもや家庭に対する支援などに取り組んだ。
- ・保育所等の待機児童数
259 人(R 2. 4. 1) → 0 人(R 7. 4. 1)(目標値達成)

【基本目標 4】

- まちなかでは、歴史・文化遺産の集積する「旧城下町エリア」と商業・業務・集客・コンベンション施設の集積する「JR岡山駅周辺エリア」において、それぞれの魅力向上と賑わいづくりを推進した。岡山芸術創造劇場ハレノワ整備等の賑わい拠点づくりとともに、各商店街、旭川河畔、西川等において民間主体の魅力づくりを積極的に後押しした。また、ハレまち通りの一車線化や、緑のボリュームアップ、路面電車の岡山駅前乗り入れ整備の推進などにより、歩いて楽しい回遊性の高いまちづくりを推進してきた。
- ・中心市街地の歩行者通行量(平日)
4,324 人(H29) → 6,308 人(R 6)
- ・中心市街地の歩行者通行量(休日)
5,654 人(H29) → 8,423 人(R 6)

○ 中山間・周辺地域等においては、地域住民と協働で持続可能な生活交通の導入を進めるなど生活サービスの維持・向上を図るとともに、地域住民と、地域課題解決や地域づくりのための諸事業を推進し、活力ある地域づくりを進めてきた。

・都市としての便利さと自然の豊かさとの調和の満足度
37.8% (R 1) → 56.9% (R 5) (目標値達成)

○ 健康ポイント事業や、生涯活躍就労支援事業等を実施し、生涯にわたり健康でいきいきと生活できるまちづくりを推進してきた。

・健康寿命の延伸
男性 71.7 歳 女性 74.4 歳 (H28) → 男性 72.30 歳 女性 74.31 歳 (R 4)

○ ESD・SDGs の普及啓発等により、市民や企業が社会課題の解決に向けて主体的に取り組む意識を醸成するとともに、ESD・市民協働推進センターを通じて、多様な主体の協働による取組を伴走支援した。また、町内会等の地域活動について担い手確保や負担軽減を支援するとともに、各区において特色ある区づくりを推進した。

・ESDプロジェクト参加団体数
307 団体 (R 1) → 397 団体 (R 6)

○ 防災・減災対策については、平成 30 年 7 月豪雨による教訓をいかし、自主防災組織の結成促進に取り組んだ。

・自主防災組織率
69.3% (H30) → 95.5% (R 6)

令和 6 年度末での検証を実施した結果、企業立地推進等の「しごと」や移住件数の増加による「ひとの流れ」など、多くの取組において一定の成果が表れているものの、大都市圏への流出や出生数の低下に伴う人口減少などの行政課題に対する更なる取組が求められている。

これまでの成果と課題を踏まえ、第 3 期総合戦略を策定し、取組を進めていく。

3. 第 3 期総合戦略のめざす姿

(1) 岡山市人口の将来見通し

我が国の総人口は、2008(平成 20)年の 1 億 2,808 万人をピークに減少局面に入り、2060(令和 42)年には 9,284 万人となると見込まれている。また、出生数・出生率の低迷により、親となりうる世代の人口が減少している一方、総人口に占める高齢者世代の割合が増加しており、2060(令和 42)年には 38%を超える水準まで高まると推計されている。このように生産年齢人口の減少と高齢者人口の増加が進むとともに、東京一極集中の傾向は変わらず、特に若い世

代の東京圏への転入超過者数が増加している。

我が国の人口が、今後大きく減少することが見込まれるなか、岡山市の人口ビジョンにおいては、2060(令和 42)年の将来人口推計について、更新したところである。

岡山市の人口は、2060(令和 42)年には 59 万 7 千人程度となる見込み※であるが、国が想定する出生率が達成された場合、2060(令和 42)年には 66 万 8 千人程度となる見込み(岡山市将来展望推計人口)である。

※国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和 5(2023)年推計)」による

(2) 方向性と基本目標

「人口ビジョン」で示した岡山市将来展望推計人口を展望しつつ、地方創生の取組を体系的かつ戦略的に推進することにより、人口減少傾向を和らげるため、これまで進めてきた持続可能な社会の構築に向けた経済社会システムの転換をより一層深化させるとともに、人口減少に適応しながら経済成長や生活の質を向上していく必要がある。

岡山市の人口は岡山県の 4 割近くを占め、圏域の中心都市として、商業・業務、医療・福祉、教育・文化、コンベンション等の高次の都市機能が集積しており、さらに、交通の至便性や豊かな自然環境、歴史・伝統・文化等様々な強みと特性を有している。今後、若者等の大都市圏への人口流出に歯止めをかけるためには、生活の安全性や利便性の向上に加えて、魅力的で働きがいのある仕事の創出や、まちの居心地の良さや創造性、期待感、高揚感など、多様な要素にあふれる質の高い都市環境づくりを進める必要がある。

また、それらを通じて、県内、中四国といった圏域全体の進学や就職の受け皿となり、大都市圏への人口流出を防ぐ役割を一層発揮することが求められる。

このような状況に対応しつつ、地方創生の実現に向けた取組を進めていく。

基本目標 1 愛着と誇りをもち、安心して働き暮らせるまちをつくる

- 人口減少や少子高齢化が進行する中においても、誰もが住み慣れた地域で安心して心豊かに暮らし続けていくために、多様な主体と協働しながら生活サービスの維持・向上や地域課題の解決、地域の活性化を図るとともに、防災・防犯やライフラインの強靱化、道路・交通の充実、脱炭素社会に向けた取組など、持続可能なまちづくりを進める。
- 安心して子どもを生み育てることができる環境づくりをはじめ、まちの賑わい拠点の更なる充実や郷土への愛着・誇りの醸成を図り、若者や女性に選ばれるまちをめざすとともに、性別や年代を問わず、誰もが個性と能力を発揮できる社会の実現や、高齢者が生涯にわたり安心して暮らせるまちづくりを進めるなど「住みやすいまち」としての魅力をさらに高める。

基本目標 2 まちの「稼ぐ力」を高め、魅力と活力あふれるまちをつくる

- 地域の「稼ぐ力」を高め、地域経済を持続的に成長させていくために、

市内企業の労働生産性や付加価値の向上を促進するとともに、スタートアップや市内企業の新分野進出への支援など、新結合により社会に新たな価値を生み出すこと（イノベーション創出）を後押しする。また、人口減少に伴う労働力不足を踏まえ、人材確保や省人化・省力化に向けた取組への支援を進める。

- 岡山市の持つ豊かな歴史・文化遺産など、固有の観光資源の魅力を高めつつ、国内外に向けた効果的なプロモーションを戦略的に展開し、更なる観光振興やインバウンド施策を推進するとともに、数々の国際会議の開催経験等を強みとし、MICE誘致を促進する。また、多様な文化芸術の創造・発信やスポーツ振興を通じてまちに新たな活力と賑わいを創出し、市民の心の豊かさや地域への愛着・誇りの醸成をめざす。
- 農業者の高齢化や減少が進む中、担い手の確保や生産基盤の強化等に取り組む生産性を高めるとともに、市内農産物のブランド力強化等により更なる消費拡大を図り、儲かる農業の実現と持続可能な農業をめざす。

基本目標３ 岡山市への新たな人の流れをつくる

- 中四国のゲートウェイとしての優れた広域拠点性や災害リスクの低さなど岡山市の持つ様々な優位性をいかし、企業の立地を推進することで、地域経済の活性化や雇用の創出を図る。
- 「暮らすまち・働くまち」としての岡山市の魅力が伝わる情報発信の強化や首都圏・関西圏での移住者誘致に取り組み、地域経済や社会を支える人材の確保に取り組むとともに、関係人口の創出・拡大を図る。また、若者の定着を促進するため、まちづくりへの参加や地域とつながる仕組みづくりを通じて地域への愛着を持ってもらうとともに、若者が岡山で希望する働き方を実現できる環境整備を進める。

基本目標４ デジタルなどの新技術の活用や広域連携を推進する

- 市内企業のデジタル化や設備投資支援、教育DXによる学習指導の充実及び働き方改革の推進、行政手続きのオンライン化、業務の効率化による担い手不足の解消等、広く市民生活を豊かにするDXを推進する。
- 連携中枢都市圏をはじめとした近隣自治体との更なる連携強化を図る。

Ⅱ めざす方向と具体的施策

基本目標 1 愛着と誇りをもち、安心して働き暮らせるまちをつくる



【数值目標】

- 子育てしやすいまちと思う保護者の割合
57.2%（R 5） → 65%（R11）
- 居住地域への愛着度
77.5%（R 5） → 80%（R11）
- 固定的な性別役割分担意識の解消度
72.8%（R 5） → 78%（R11）
- 健康寿命
男性 72.30 歳（R 4） → 73.7 歳（R10）
女性 74.31 歳（R 4） → 75.7 歳（R10）
- 自主防災組織率
95.5%（R 6） → 100%（R12）
- 居住誘導区域内人口密度
59.3 人/ha（R 6） → 60 人/ha（R12）

基本的方向

(1) こども・若者が輝き、安心して子育てができるまちづくり

共働き家庭の増加や核家族化の進行、地域とのつながりの希薄化などが進む中、妊娠期からの切れ目ない健康づくりへの支援や子育ての負担感や不安感を和らげる支援、放課後児童クラブの待機児童対策等の共働き・共育ての推進などを通じて、希望する誰もが安心してこどもを生き育てることができる環境づくりを進める。

困難を抱える子どもやその家庭に対し、多様な主体が連携して早期発見・早期支援につなげるとともに、個別の状況に応じたきめ細かな支援を行う。

（２）多様な主体による活力ある地域づくり

中山間・周辺地域をはじめとした各地域において、固有の魅力をいかした活力があり持続可能な地域づくりを進めるため、地域の経済活性化、歴史・文化の継承、生活サービスの維持・向上の3つの視点のもと、多様な担い手の参画を得ながら、地域の活性化と課題解決に向けて取り組む。

(3) 若者や女性にも選ばれるまちづくり

性別や世代を問わず、誰もが等しく個性と能力を発揮し、安心して暮らせる社会の実現に向けて、多様性を認め合う意識の高揚を図る。

固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消に向けて、社会全体の意識の醸成を図るとともに、誰もが仕事と家庭を両立できる環境づくりを企業に働きかける。また、ふるさとに学ぶ教育を家庭・学校・地域が協働しながら行うことにより、子どもたちの地域への愛着と誇り、地域を大切にすることを育む。

(4) 健康寿命の延伸と豊富な医療・介護資源をいかした地域づくり

生涯にわたり健康でいきいきと暮らしていけるよう、健康寿命の延伸を図る取組や、高齢者等の就労や社会参加に向けた支援を行うとともに、医療・介護が必要な状態となっても、豊富な医療・介護資源をいかした地域包括ケアシステムにより、住み慣れた地域で安心して自分らしい暮らしを送れるまちづくりを進める。

(5) 安全・安心に暮らせるまちづくり

地域のつながる力を高めつつ、防災・防犯の備えを強化するとともに、災害発生時にも、市民生活に欠くことのできないライフラインを確保するため、インフラの耐震化・長寿命化や消防基盤の充実等を通じて安全・安心な地域づくりを進める。

(6) 将来を見据えた持続可能なまちづくり

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくために、コンパクトでネットワーク化された都市づくりを進め、各地域の拠点や公共交通沿線などに居住を緩やかに集積していくことによって、医療、福祉、商業等の都市機能を維持する。

様々な人が住み、交流する賑わいの空間があるまちづくりを重点的に進めるため、高次都市機能の集積と利便性の高い居住空間の創出をバランスよく促進するとともに、豊かな緑と水の自然に恵まれた環境をいかし、生活に潤いをもたらす良好な都市景観を形成する。

脱炭素型の都市をめざし、再生可能エネルギー導入や省エネルギー化を推進する。あわせて、循環型社会の構築に向け、ごみの減量化やリサイクルを推進する。また、生物多様性の保全や環境学習等を進める。

具体的な施策と重要業績指標(KPI)

(1) こども・若者が輝き、安心して子育てができるまちづくり

①妊娠期からの切れ目ない健康づくりへの支援と子育ての負担感や不安感をやわらげる支援

妊産婦の健康や乳幼児の健やかな成長・発達のための支援や、妊娠・出産を希望される方への支援といった母子保健事業を通して、それぞれの時期に対応した切れ目ない支援に取り組むとともに、あらゆる機会を捉えて育児環境を把握しながら、継続的な支援が必要な場合には母子保健と児童福祉が連携し、一人ひとりの状況に応じた包括的な相談支援を行う。

様々な育児支援や家事支援、子ども医療費の助成等による経済的負担の軽減など、子育て家庭の孤立を防ぎ、負担感・不安感を軽減する取組を進める。

こどもが安全に安心して過ごすことができる居場所づくりを進めるとともに、多様な遊びや体験ができる場の確保に取り組む。また、これらの居場所や活動の場づくりを通じて、地域において新たなつながりの輪が広がっていくように、交流の機会を提供する。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
子育てしやすいまちと思う保護者の割合	57.2% (R5)	65% (R11)

②共働き・共育での推進

保育の安定的な受け皿確保に努めるとともに、こどもの特性や状況に応じた支援など保育の質の向上を図る。また、放課後児童クラブの待機児童解消に向けて施設整備や人員確保を行うとともに、サービス向上など放課後児童クラブの充実を図る。あわせて、固定的な性別役割分担意識の解消や男性の家事・育児知識の習得への支援、企業に対する働き方改革や男性育休の啓発などに取り組む。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
放課後児童クラブの待機児童数	236 人	0 人(R9 以降)

③困難な状況や多様な教育ニーズを踏まえた支援

児童虐待、ヤングケアラー、貧困、障害、医療的ケアなど、様々な要因により困難な状況にあるこども・若者やその家庭に対し、一人ひとりに応じたきめ細かな相談支援体制の充実を図るとともに、関係機関や民間団体、地域との協働のもと、支援が必要なこども・若者や家庭の早期発見に努め、社会から孤立することがないように、必要な支援につなげる。

支援や配慮を必要とするこどもが安心して学校生活を送ることができるよう、専門的な相談・支援ができる体制づくりを進めるとともに、不登校の未然防止に向けた支援や、不登校やその傾向がある児童生徒に対して、一人ひとりの個性に寄り添う居場所づくりに取り組む。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
こどもの居場所(こども食堂等)の数	62 箇所	72 箇所

(2) 多様な主体による活力ある地域づくり

①持続可能な地域づくり

これまで、人口減少が進行する中山間・周辺地域をはじめとした各地域の維持・活性化を図ってきた。今後も、誰もが住み慣れた地域で安心して心豊かに暮らせるよう、交通や子育て、医療・介護、防災・防犯対策など、生活サービスの維持・向上に取り組む。

地域の担い手が減少する中、多様な主体による地域づくりを支援するとともに、新たな担い手を育成することで、地域コミュニティの維持・活性化を促進する。

地域の特色をいかした産業の振興と地域をつなぐ物流ネットワークの充実・強化等による地域の経済の持続的な成長や、農業の担い手確保と生産性向上への支援など農林水産業の振興に取り組み、活力ある地域づくりを進める。

多様で個性豊かな歴史・文化の保存と活用、発信を進めるとともに、こどもの頃から地域を知り、大切に思う心を育むことを通じて、郷土への愛着・誇りの醸成や地域の魅力創出につなげる。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
居住地域への愛着度	77.5%(R5)	80%(R11)

②多様な主体の協働促進

NPO等の市民活動団体が、多様な主体相互のパートナーとして安定的に活動できるよう支援を行うとともに、関係機関と連携して地域活動の担い手づくりを進める。

SDGs達成に向けたESDの推進を通じて持続可能な社会づくりをめざすとともに、次世代を担う若者や地域内の企業・NPOの参加を促すなど、多様な主体の地域活動への参画を促進する。

地域住民の学びと活動の拠点である公民館や図書館等の社会教育施設の機能強化を図り、誰もが生涯にわたり主体的に学び続けることができる環境を整えとともに、未来を担うこどもの健やかな成長に向けて家庭・学校・地域が

一体となった社会全体での教育を進める。

外国人市民が増加・多国籍化する中で、互いの文化的差異を認め合い、地域社会の一員としてともに支え合い、地域を築いていけるよう、誰もが暮らしやすく活躍できる多文化共生のまちづくりを進める。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
ESDプロジェクト参加団体数	397 団体	480 団体

(3) 若者や女性にも選ばれるまちづくり

①多様性に富んだ活力あるまちづくり

性別や世代を問わず、誰もが等しく個性と能力を発揮し、安心して暮らせる社会の実現に向けて、多様性を認め合う意識の高揚を図る。また、依然として家事・育児・介護等の多くを女性が担っているなど、社会の様々な場において残っている固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消に向け、一層の意識啓発に取り組む。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
固定的な性別役割分担意識の解消度	72.8%(R5)	78%(R11)

②多様な働き方の推進と魅力的な職場づくりへの支援

誰もが働きやすい環境づくりを進めるため、労働生産性の向上等による長時間労働の是正や、仕事と家庭の両立支援制度の充実、柔軟な働き方の導入によるワーク・ライフ・バランスの確保等について企業への啓発を推進する。

働く女性のためのキャリアアップ支援や、結婚や出産等のライフステージの変化の中にあっても働き続けられるよう、女性の健康課題に対する取組等の推進を企業に働きかける。また、離職した女性の就労を支援する。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
岡山市女性が輝く男女共同参画推進事業所の認証件数	131 件	250 件

③主体性と地域への愛着を育む教育の推進

社会的・職業的自立に向けたキャリア教育を推進するとともに、持続可能な社会の創り手となるこどもの育成を目指し、身近な地域課題の解決に向けた探究的な学習活動の充実を図る。

ふるさとに学ぶ教育を家庭・学校・地域が協働しながら行い、こどもたちの

地域への愛着と誇り、地域を大切にする心を育む。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うこどもの割合	小:84.3% 中:76.6%	小:86% 中:80%

④大学等との連携による社会課題解決の推進

市内の大学をはじめとする産官学金労言士等の地域のステークホルダーと連携し、人口減少・少子高齢化に伴う様々な課題の解決をめざす。

(4) 健康寿命の延伸と豊富な医療・介護資源をいかした地域づくり

①生涯にわたり健康でいきいきと生活できるまちづくり

市民や地域団体をはじめとした多様な主体と連携し、運動習慣の定着やがん検診受診率向上等に取り組むとともに、市民等が手軽に取り組める「健康ポイント事業」など、健康寿命の延伸に向けた健康づくりや、高齢者が地域において自立した生活が継続できるよう、介護予防を推進する。

高齢者等に対する就労や社会参加に向けた支援を通じて、生涯現役で活躍できる環境づくりを進める。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
健康寿命	72.30 歳	73.7 歳
上段:男性	74.31 歳	75.7 歳
下段:女性	(R4)	(R10)
生涯かつやく支援センターが就労に結び付けた人数	175 人 (R2~R6 の平均)	180 人

②医療・介護体制の充実

医療・介護が必要な状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、豊富な医療・介護資源をいかして地域包括ケアシステムをさらに推進していく。

認知症への取組と保健・医療・福祉の有機的な連携を図ることで、認知症の人が医療・介護サービスを適時かつ切れ目なく利用できるようにする。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
生活・介護支援サポーター養成数	97 人 (R2～R6 の平均)	120 人
認知症サポーター養成数(累計)	74,101 人	104,100 人

③地域共生社会の推進

多様で複合的な地域課題やニーズに応えるため、民生委員・児童委員、安全・安心ネットワーク、社会福祉協議会等の関係機関との協働に加え、NPOやボランティア、社会福祉法人、地域住民との連携を図り、既存の活動をいかしながら地域福祉活動を推進する。

高齢者や障害者等、誰もが暮らしやすい地域社会の実現をめざすユニバーサルデザイン・共生社会の考え方にに基づき、様々な分野においてハード・ソフト両面の取組を推進する。

(5) 安全・安心に暮らせるまちづくり

①防災・防犯に対する備えの強化や自立した消費者の育成

市民一人ひとりが防災に関する十分な知識を持ち、自主防災の重要性を認識できるよう、防災学習会や防災訓練、自主防災組織の育成、避難所の備蓄強化など、地域防災力の向上を図るとともに、ハザードマップ等の普及や出水期の降雨に備えた土のう配布など、災害への備えを強化する。

地域の防犯力強化に向けて、防犯カメラや防犯灯の設置支援を推進するとともに、高齢者の特殊詐欺等被害を未然に防止する取組や、交通事故削減のための各種啓発活動など、交通安全対策を推進する。

人や社会、環境に配慮したものやサービスを選んで消費する「エシカル消費」の普及に向けた啓発を進めるとともに、消費者トラブルの防止・早期解決に向けた地域の各種団体との連携強化を図る。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
自主防災組織率	95.5%	100%

②安全・安心な都市基盤の整備と災害対応力の向上

平成 30 年 7 月豪雨等を踏まえ、市民及び事業者と連携しハード・ソフト両面からの総合的な浸水対策に取り組むとともに、道路や橋りょうの耐震化・長寿命化、用水路への転落防止対策、交通安全施設の整備など、身近な都市施設や建築物等の安全・安心を確保する。

上下水道管路の老朽化対策、破損による道路陥没・機能停止の防止等のため、上下水道管路等の計画的な更新及び耐震化等の工事を進めるなど、ライフライ

ンの強靱化を進め、災害に強い都市基盤を構築する。

大規模化・多様化する各種災害へ迅速・的確に対応するため、ハード・ソフトの両面から消防サービスの質を高め、総合的な災害対応力の向上を図る。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
大規模浸水被害を受けた地域における浸水対策整備面積	279ha	525ha

(6) 将来を見据えた持続可能なまちづくり

①持続可能な土地利用の推進と暮らしやすい住環境づくり

「岡山市立地適正化計画」において居住や都市機能を誘導する区域を定め、一定の人口密度を維持するとともに必要な都市機能を確保し、それらの区域を公共交通ネットワークで結ぶことで、生活の質が高く活力あふれる持続可能な都市づくりを進める。

空き家対策や住宅の耐震化・バリアフリー化など、快適で安全な住環境づくりを進める。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
居住誘導区域内人口密度	59.3 人/ha	60 人/ha

②交通の維持・確保と道路ネットワークの充実

公共交通サービスの安定的な提供や利便性向上のため、バス路線の再編や駅前広場整備等による交通結節機能の強化等に取り組む。

公共交通が身近になく、買い物や通院等の日常生活における移動が不便な地域では、地域住民及び交通事業者との連携により、地域特性に応じた生活交通の導入に取り組む。

外環状線・中環状線の整備等により、都心部やその周辺における渋滞緩和や地域拠点から都心へのアクセス性向上を図るとともに、地域高規格道路である美作岡山道路の整備を進め、高速道路との連携強化による流通機能の向上や産業活動の拡大を促進する。また、狭小幅員の道路改良や交通安全施設の整備など、市民生活に身近な生活道路の整備を進める。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
公共交通アクセス圏外に居住する人口	18.2 万人(R2)	16.2 万人

③魅力・賑わい拠点の充実

様々な人が住み、交流する賑わいの空間があるまちづくりを重点的に進める

ため、高次都市機能の集積と利便性の高い居住空間の創出をバランスよく促進する。

居心地が良く歩いて楽しいまちづくりを進めるため、官民連携による都市空間の多様な利活用や商店街の魅力向上・活性化に取り組むことで、更なるまちなかの賑わい創出や回遊性の向上などを図るとともに、都市生活に憩いと潤いをもたらす緑と水の空間づくりのため、まちなかの街路樹のボリュームアップや旭川等の周遊性、親水性の向上により、魅力ある都市景観の形成を図る。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
中心市街地の歩行者通行量(1日当たり)	8.5 千人	9.3 千人
上段:平日	10.5 千人	11.5 千人
下段:休日		
JR岡山駅乗降客数(1日当たり)	13.6 万人	14.4 万人

④環境にやさしいまちづくり

脱炭素型の都市の実現に向けて、エネルギーの地産地消、省エネルギー化、安定的なエネルギー確保や未利用エネルギーの利活用などにより温室効果ガスの削減を図り、市域全体での効率的・効果的なエネルギーの利活用を進めるとともに、岡山連携中枢都市圏の市町等と協力して、脱炭素社会に向けた新たな取組について検討を進める。

多様な主体との連携による自然体験プログラムの実施や生物多様性の保全に取り組む企業活動の支援、地域での主体的な環境保全活動の担い手づくりを進め、環境保全活動の輪を広げる。

循環型社会の構築に向けて、市民、事業者と一体となって、リデュース（ごみを減らす）、リユース（繰り返し使う）、リサイクル（再資源化する）、リニューアブル（再生可能な資源に替える）を推進する。

市民の健康で快適な暮らしや良好な水環境を保全するため、公共下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽等の適切な役割分担のもと、総合的な汚水処理対策を推進する。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
温室効果ガス排出量	5,204 千t- CO ₂ (R4 暫定)	3,606 千t- CO ₂

主な事務事業

(1) こども・若者が輝き、安心して子育てができるまちづくり

①妊娠期からの切れ目ない健康づくりへの支援と子育ての負担感や不安感をやわらげる支援

事業名	内 容
妊婦等包括相談支援事業	・ 妊娠期から産後及び子育て期における、助産師等専門職による相談窓口「こども家庭センター（産前産後相談ステーション）」を活用した妊産婦等の相談支援体制の充実
産後ケア事業	・ 産後の母親の身体的回復と心理的安定を促進するとともに、安心して子育てができるよう支援を実施
子育て支援の拠点づくり	・ 乳幼児親子が相互交流を行う場の提供や職員による子育て相談・助言、情報提供等の援助を行う地域子育て支援拠点事業の実施 ・ 地域住民主体で運営する、乳幼児親子が子育てに関する学習・交流をする子育て広場に対する補助
プレーパーク普及事業	・ 地域住民との協働によるプレーパークの開催 ・ 遊びを見守るプレーリーダーを養成する研修会の開催
心豊かな岡山っ子応援団	・ 愛育委員が乳幼児のいる家庭を訪問する「こんにちは赤ちゃん事業」で渡す絵本の購入等による子育ての応援
ファミリーサポート事業	・ 育児の援助をしてほしい方と応援したい方の相互援助活動の支援 ・ ひとり親世帯等困難を抱える家庭に対する利用料の一部補助
シルバー世代産前産後応援事業	・ シルバー世代の支援者による産前産後の妊産婦への育児・家事援助 ・ 支援者の養成
子育てパパ・プレパパ応援事業	・ 妊娠中のパートナーがいる男性を対象とした、もく浴指導や疑似妊婦体験をする講座の開催 ・ 概ね3歳までのこどもを子育て中の男性を対象とした、子育ての知識、技術が習得できる研修や講座の実施

②共働き・共育での推進

事業名	内 容
保育士確保支援事業	・ 私立保育所等に対する保育人材を確保するための支援や、保育士・保育所支援センターにおける「潜在保育士」への就職相談等による就職促進
安定的な保育の受け皿の確保	・ 市立幼保連携型認定こども園を36中学校区に1園ずつ整備し、その他の市立園は民間移管若しくは統廃合を推進 ・ 施設の耐震化及び老朽化対策等を計画する私立認可保育所等の支援
放課後児童健全育成事業	・ 施設整備、人員確保、民間事業者活用などによる放課後児童クラブの受け皿確保の推進

③困難な状況や多様な教育ニーズを踏まえた支援

事業名	内容
こども家庭センターを中心とした相談支援の充実	・地域の妊産婦や子育て家庭を対象とした子育て情報の提供や相談支援 ・支援が必要な妊産婦や子育て家庭に対する個別の状況に応じた支援 ・地域の関係団体と連携した、こどもや子育て家庭を支援する体制づくり
児童虐待防止対策事業	・弁護士との顧問契約等による、困難事例における法律上の問題への的確な対応 ・こども総合相談所への現職警察官の配置による、緊急性の高い事案への迅速な対応 ・SNS（「親子のための相談LINE」）を活用した、子育てやヤングケアラー等に関わる悩みや不安を相談しやすい環境の整備 ・虐待など養育上の問題により傷ついた親子関係を再構築するための、医学的・心理学的知見に基づいた支援プログラムの実施

（２）多様な主体による活力ある地域づくり

①持続可能な地域づくり

事業名	内容
地域の未来づくり推進事業	・中山間・周辺地域の持続可能な地域づくりのため、地域課題解決に取り組むコミュニティビジネス創出の支援
地域おこし協力隊事業	・地域おこしのため、地域協力活動に取り組む人材の誘致
観光資源の魅力アップ事業[再掲]	・烏城灯源郷と幻想庭園の同時開催、岡山城の夜間利用等ナイトタイムエコノミーの実施 ・倉敷市等他都市との連携を通じた日本遺産をはじめとする広域周遊観光の促進 ・瀬戸内海沿岸の都市や西のゴールデンルートアライアンス等と連携した情報発信や、岡山をベース宿泊地とする広域周遊観光等の促進 ・戦国宇喜多家や日本遺産をはじめとする歴史・文化遺産を活用した情報発信、受入体制の整備 ・デジタル技術を活用した新たな魅力創出 ・郷土に根付いた芸能の振興と民謡の普及促進
公共交通の維持・拡充	・地域公共交通利便増進事業の推進[再掲]、生活交通の維持・改善、新たな生活交通（デマンド型乗合タクシー等）の導入[再掲]
農業の担い手の確保・育成事業[再掲]	・就農相談会や農業体験研修等の実施による新規就農の促進 ・新規就農者への奨励金給付や就農直後の経営確立に資する資金の交付 ・農福連携など多様な人材活用の促進

②多様な主体の協働促進

事業名	内 容
区づくり推進事業	・ 地域の特性をいかした地域交流事業及び課題解決のための地域活動に対する活動経費の一部助成
市民協働推進事業	・ 市民と行政との協働によって岡山市の社会課題解決を図る事業への経費の一部助成 ・ 市民と行政双方から課題を提案し解決方法を検討するワークショップの開催
岡山ESDプロジェクト推進事業	・ SDGs・ESDに関する取組を支援するESD活動支援助成金の交付、各種研修やフォーラム開催のほか、学生を対象としたESDに関するNPO等の職場体験プログラム等の提供、優良事例の顕彰等を実施する岡山ESD推進協議会への経費の助成、ESD活動等の情報発信等

(3) 若者や女性にも選ばれるまちづくり

①多様性に富んだ活力あるまちづくり

事業名	内 容
男女共同参画推進事業 (さんかくウィーク)	・ 「男女共同参画推進週間(さんかくウィーク)」の期間を中心とした、市民協働による講演会や講座、パネル展など多彩なイベントの実施
男女共同参画推進事業 (さんかく岡山)	・ 男女共同参画に関する啓発講座や気軽に参加できる多彩なイベント、こどもを対象とした体験型プログラム、男女共同参画を推進する人材の養成を目的とした講座等の開催

②多様な働き方の推進と魅力的な職場づくりへの支援

事業名	内 容
女性が輝くまちづくり推進事業	・ 企業を対象にした女性活躍及びワーク・ライフ・バランス推進に向けたセミナーの開催 ・ 企業における働き方改革などの先進事例の情報発信等の実施 ・ 女性活躍及び仕事と家庭の両立支援に積極的に取り組んでいる企業の表彰・認証 ・ 離職した女性のスキルアップや再就職支援及び女性起業家の育成支援 ・ 学生のためのキャリア形成応援事業の実施 ・ 困難な問題を抱える女性への支援
雇用対策等事業[一部再掲]	・ 市内企業の企業情報の収集・整理及び大学生等への提供による情報発信 ・ 新規学卒者等を対象とした合同企業説明会の実施 ・ 市内企業への就職促進のための、県内外の学生と市内企業との交流の場の創出

③主体性と地域への愛着を育む教育の推進

事業名	内 容
おかやま未来探究プロジェクト	・ 地域との協働による地域の自然環境や歴史等に関わるＥＳＤとキャリア教育の推進

（４）健康寿命の延伸と豊富な医療・介護資源をいかした地域づくり

①生涯にわたり健康でいきいきと生活できるまちづくり

事業名	内 容
健康寿命延伸事業	・ 健康寿命の延伸に寄与するとされる、「身体活動・運動」「栄養・食生活」「社会参加」の取組に対してインセンティブを付与することで、健康づくり無関心層を含めた多くの市民等の健康的な生活の習慣化などを促すことを目的とした、健康ポイント事業の実施
生涯活躍就労支援事業	・ 生涯かつやく支援センターにおける、高齢者等のニーズに合った就労や社会参加のマッチング支援と、企業等の高齢者雇用に対する理解の促進 ・ シルバー人材センターやボランティアセンター等と連携した、高齢者の社会参加の促進
フレイル対策事業	・ 概ね 65 歳以上の一般高齢者を対象とした、薬局や通いの場など地域の身近な場所でのフレイル健康チェックの実施

②医療・介護体制の充実

事業名	内 容
在宅医療介護推進事業	・ 市民や専門職を対象とした医療・介護の相談及び支援、在宅医療・介護の人材育成、多職種連携とＩＣＴツール利活用の促進、市民への在宅医療・介護、人生会議（ＡＣＰ）等の普及啓発の実施
認知症サポーター養成事業	・ 認知症を正しく理解し、認知症の人とその家族を温かく見守り支援する「認知症サポーター」の養成の実施 ・ こども・学生、企業の従業員に対するサポーター養成の取組の強化
地域包括支援センター運営事業	・ 「総合相談支援」、「権利擁護」、「包括的・継続的ケアマネジメント支援」、「介護予防ケアマネジメント」のサービス提供を通じた、地域で暮らす高齢者に対する介護・保健・医療・福祉など様々な面からの総合的な支援の実施

（５）安全・安心に暮らせるまちづくり

①防犯・防災に対する備えの強化

事業名	内 容
自主防災組織育成事業	・ 自主防災組織の結成促進、助成金の給付 ・ 地域の防災活動の担い手や防災意識の普及啓発に携わる公民館職員の人材育成 ・ 避難行動要支援者個別避難計画作成促進に向けた取組

②安全・安心な都市基盤の整備と災害対応力の向上

事業名	内 容
浸水対策事業	・ 旭川や笹ヶ瀬川、砂川等、国や県が管理する河川の改修促進等 ・ 雨水ポンプ場及び雨水幹線の計画的な整備 ・ 倉安川などの河川改修等の推進 ・ 農業用水路等水位の事前調整、可搬式ポンプの配置などによる浸水対策の推進 ・ 老朽化した農業用水路、農業用排水機場、ため池等の整備及び管理の強化 ・ 公共施設及び民間開発等に係る雨水流出抑制施設の設置の推進 ・ 洪水、土砂災害、内水ハザードマップ及びため池浸水想定マップの普及啓発や土のうの配布等 ・ タイムラインによる防災関係機関の横断的連携の強化
道路改修事業	・ 道路の改修や維持管理及び交通安全施設の整備
水道管路耐震化等更新事業	・ 老朽管の更新、耐震化 ・ 重要施設へ至る管路の耐震化
下水道管きよの長寿命化、耐震化	・ 重要な幹線等の管きよ及びマンホールの点検・調査、耐震化、改築更新

(6) 将来を見据えた持続可能なまちづくり

①持続可能な土地利用の推進と暮らしやすい住環境づくり

事業名	内 容
土地利用の適正誘導	・ 都市計画法、農業振興地域の整備に関する法律等の適正な運用及び都市計画マスタープランに基づく計画的な土地利用の推進 ・ 立地適正化計画に基づく都市機能や居住の誘導区域への誘導 ・ 公共交通施策等の関連施策と連携した、コンパクトでネットワーク化された都市づくりの推進
空き家対策	・ 助成制度の活用などによる空家等の適正管理・利活用の促進及び発生抑制
鉄道の利便性向上	・ 桃太郎線 L R T 化の検討や駅前広場等の交通結節点強化
まちなかの魅力や賑わいをつなぐ公共交通の利便性向上	・ 路面電車の岡山駅前広場への乗り入れ及びネットワーク化に向けた取組の推進 ・ 岡山駅東口駅前広場の再整備による魅力と利便性の向上

②交通の維持・確保と道路ネットワークの充実

事業名	内 容
新たな生活交通（デマンド型乗合タクシー等）の導入	・ 地域住民及び交通事業者との連携による、買い物や通院などの日常生活における移動が不便な地域への新たな移動手段の導入の推進
地域公共交通利便増進事業の推進	・ 「岡山市地域公共交通利便増進実施計画」に基づき、バス路線の再編や利用環境・業務環境の向上に資する各種施策を推進

③魅力・賑わい拠点の充実

事業名	内 容
旧城下町エリアの賑わいづくりの推進	・ 岡山城の魅力向上につながる、必要な施策をハード、ソフト両面から実施 ・ 烏城灯源郷と幻想庭園の連携をはじめとする岡山城と岡山後楽園の各種連携イベントの開催や情報発信 ・ 官民連携による烏城公園石山地区の整備・運営事業、岡山城西の丸活用検討等 ・ 「旭川かわまちづくり計画」に基づき、国との連携による旭川の周遊性・親水性向上、周辺における賑わいの創出 ・ 市民、事業者、NPO、大学等との協働による、まちなかの公園の特性をいかした利活用やルールづくり ・ 市民の文化芸術の鑑賞や活動の拠点である岡山芸術創造劇場ハレノワや岡山シンフォニーホールの運営 ・ 岡山城周辺の旧城下町エリアを主会場とした国際現代美術展「岡山芸術交流」の開催等
歩いて楽しい道路空間創出事業	・ 官民連携による、ハレまち通りの道路空間の利活用及び空き店舗や空き地等の有効活用に向けた取組 ・ まちなかの賑わい創出や回遊性の向上を官民連携により面的に拡げる取組 ・ 商店街等における官民連携の道路空間の利活用に向けた取組

④環境にやさしいまちづくり

事業名	内 容
地球温暖化対策事業	・ 徹底した省エネルギーの推進 ・ 再生可能エネルギー等次世代エネルギー導入の推進 ・ 電気自動車等の普及促進 ・ 岡山連携中枢都市圏の市町等との取組の検討
環境づくり支援事業	・ 自然環境や生物多様性についての意識向上を目的とした、多様な主体が開催する自然体験プログラムに対する支援 ・ 地域イベントや体験学習等を通じて、里地里山里海の地域づくりを担う新たな人材確保の枠組み形成を推進 ・ 地域で自発的に環境を保全・創造する活動を実践する市民や団体等を「エコボランティア」として位置づけて活動を支援

事業名	内容
資源循環指導・啓発事業	・ 市民、事業者に向けた減量化・資源化に関する意識と行動の変容を促す情報提供や、ごみ分別アプリ・出前講座等による周知啓発 ・ 排出されたごみの組成分析による資源化物の混入割合の調査 ・ 海洋に流出するプラスチックごみを減らす取組
下水道整備事業	・ 公共下水道と合併処理浄化槽との適切な役割を踏まえ効果的、効率的な下水道整備
合併処理浄化槽設置補助金事業	・ 下水道整備計画のない地域や下水道整備の予定が当面ない地域における、自宅に合併処理浄化槽を設置する個人に対する補助金の交付
汚水処理施設の統廃合	・ 公共下水道や農業集落排水の処理場の統廃合の推進

基本目標2 まちの「稼ぐ力」を高め、魅力と活力あふれるまちをつくる



【数値目標】

■付加価値向上に向けた市の支援を受けた事業者数

80 者（R 6） → 470 者（R 8～R12 の合計）（R12）

■スタートアップ創出数（累計）

50 社（R 6） → 110 社（R12）

■観光客数

6,207 千人（R 6） → 8,755 千人（R12）

■新規就農者数

31 人（R 6） → 150 人（R 8～R12 の合計）（R12）

基本的方向

（1）地域経済の活性化を促進する産業の振興

市内企業の持続的な発展を実現するため、デジタル化や設備投資支援等を通じて、企業の労働生産性や付加価値の向上、持続的な賃上げを促進するとともに、新分野進出への支援等の中小企業の事業成長や、創業しやすい環境づくりを進める。

スタートアップ等の創出・成長の推進や、市内企業の新規事業創出への支援など、新結合により新たな価値を生み出すこと（イノベーション創出）を促進する。

人口減少に伴う労働力不足を踏まえ、市内企業の省人化・省力化に向けた取組への支援や、経営資源や雇用・技術を次世代に引き継ぐための円滑な事業承継に向けた環境整備を推進する。

市内企業の人材確保に向けて、新規学卒予定者やU I J ターン希望者等への企業情報の発信、雇用のマッチングを推進する。

商店街における賑わいづくりや空き店舗対策への支援、新たな担い手の創出・育成などに取り組む。

（2）歴史・文化・スポーツ等をいかした新たな価値と魅力の創出や観光誘客の促進

近隣自治体との連携によるテーマやストーリー性を重視した観光ルートの開発や、日本遺産をはじめとする歴史・文化遺産や豊かな食文化等の岡山市固有の観光資源の魅力向上を図るとともに、各国・地域のニーズ等にあわせた情報発信、受入体制の整備を行うことにより、インバウンド施策を推進する。

数々の国際会議の開催経験や、SDG s・ESD分野の施策推進により

培われたサステナビリティの視点を強みとし、国内外からのMICEの誘致に積極的に取り組む。

「岡山芸術創造劇場ハレノワ」等の文化芸術施設を核とした文化芸術の振興やスポーツ振興を通じてまちに新たな活力と賑わいを創出するとともに、市民の心の豊かさや岡山への愛着と誇りの醸成を図る。

(3) 持続可能で活力ある農林水産業の振興

農業者の高齢化や減少が進んでいる中、新規就農者や農福連携等の推進による担い手の確保を図るとともに、持続可能な農業経営の確立に向け、新たな栽培技術やスマート農業機械・設備の導入を支援するなど生産性の向上や安定生産を促進する。

農村地域の持続的な発展をめざし、生産基盤の確保・強化や農地の集積・集約化による効率化に取り組むとともに、品質の高い市内産農産物の販路拡大やブランド力の強化を図る。

具体的な施策と重要業績指標(KPI)

(1) 地域経済の活性化を促進する産業の振興

①地域経済の持続的な発展に向けた事業成長の支援

市内企業の持続的な発展を実現するため、デジタル化や設備投資支援等を通じて、企業の労働生産性や付加価値の向上、持続的な賃上げを促進する。

マーケティング活動や新分野進出に係る設備投資への支援を通じて、新たな市場の開拓や販路拡張につなげ、中小企業の事業成長を支援するとともに、創業支援や相談体制の充実を図り、創業しやすい環境づくりを進める。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
付加価値向上に向けた市の支援を受けた事業者数	80 者	470 者 (R8~R12 の合計)

②新たな価値を生み出すイノベーション創出の促進

支援拠点「ももスタ」を中心にスタートアップの裾野拡大と事業成長を図るため、伴走支援や資金調達環境の整備、市内企業等との交流、若年層の起業家精神の醸成等を促進する。

第2期スタートアップ・エコシステム拠点都市(NEXT グローバル拠点都市)として、産官学金言など多様な関係機関が一体となりスタートアップ・エコシステムを形成し、スタートアップ等の創出や成長を推進するとともに、新規事業の創出に取り組む市内企業を支援することにより、新たな価値を生み出すイノベーション創出を促進する。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
スタートアップ創出数(累計)	50 社	110 社

③安定した経営を可能にする事業環境の整備

人口減少に伴う労働力不足を踏まえた事業経営を後押しするため、市内企業の省人化・省力化の取組を支援するとともに、中小企業の貴重な経営資源や、雇用・技術を次世代に引き継ぐため、円滑な事業承継に向けた環境整備を推進する。

商工会議所・商工会と連携し、経営基盤がぜい弱な中小・小規模事業者の資金調達の円滑化等を支援し、経営の安定化を進める。

商店街における賑わいづくりや空き店舗対策を支援するとともに、新たな担い手の創出・育成などに取り組み、市内の商業の活性化を促進する。

市内企業の人材確保のため、新規学卒予定者やU I J ターン希望者等の求職者に向けた企業情報の効果的な発信、企業説明会等による求職者と市内企業との交流機会の充実等により、雇用のマッチングを推進する。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
付加価値向上に向けた市の支援を受けた事業者数[再掲]	80 者	470 者 (R8～R12 の合計)

(2) 歴史・文化・スポーツ等をいかした新たな価値と魅力の創出や観光誘客の促進

①観光の振興と情報発信力の強化

岡山連携中枢都市圏の自治体や瀬戸内海でつながる地域等と連携し、テーマやストーリー性を重視した観光ルートの開発や情報発信等により、地域全体の魅力向上を図る。

岡山城や日本遺産をはじめとする歴史・文化遺産や豊かな食文化等の岡山市固有の観光資源の魅力を高めつつ、観光客の利便性向上や快適な環境整備を行うとともに、観光体験メニューや食の開発、観光ガイド等によるおもてなし機運の醸成等により、宿泊地としての魅力向上と新たな観光客やリピート客の獲得を図る。

「文化財と観光の融合」をテーマに、岡山市の強みである豊かな歴史・文化遺産を掘り起こし、新たな観光資源として磨き上げ、魅力を高めるとともに、様々な文化芸術イベントの開催等を通じて、新たなまちの魅力や文化を創造し、国内外に向けて積極的に発信する。

「桃太郎」をキーワードに岡山市が持つ様々な魅力を発信し、認知度向上を図るため、国内外に向けた効果的なプロモーションを戦略的に展開する。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
観光客数	6,207 千人	8,755 千人

②外国人観光客誘客と受入体制の整備

東アジアを中心に観光客の増加を押し上げているインバウンド市場においては、各国・地域のニーズ等にあわせた情報発信や受入体制を整備するなど、インバウンド施策を推進する。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
外国人延べ宿泊者数	214,800 人	271,000 人

③M I C E 誘致の推進

岡山市、(公社) おかやま観光コンベンション協会、(株) 岡山コンベンションセンターに加え、岡山大学や岡山理科大学、岡山商工会議所等の産学官が連携し、M I C E の誘致・開催体制をさらに強化するとともに、主催者へ機を逃さず情報や支援を提供することにより、M I C E 開催を促進する。

「G 2 0 岡山保健大臣会合」や「グローバルR C E 会議」等の国際会議の開催経験や、S D G s ・ E S D 分野の施策推進により培われたサステナビリティの視点をM I C E 誘致・開催における強みとし、国際会議の積極的な誘致に取り組むとともに受入体制の充実・強化を進める。

ユネスコ創造都市ネットワークを通じて海外の諸都市と連携することにより、岡山市の国際的なプレゼンスを高めるなど、国内外に向けてまちの魅力を積極的に発信する。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
コンベンション参加者数	128,825 人	153,000 人

④文化芸術・スポーツの振興

「岡山芸術創造劇場ハレノワ」などの文化芸術施設を核に、多様な文化芸術の継承・創造・発信や、市民や来訪者に多様な文化芸術に触れ、親しみ、楽しむ機会を提供するとともに、新たな文化の担い手育成を進め、文化の薫る魅力と賑わいのあるまちづくりを推進する。

「おかやまアーツフェスティバル」をはじめとする市民の文化芸術活動、創作活動の発表の場の充実を図るとともに、ユネスコ創造都市ネットワークを通じて海外の諸都市と連携することにより、岡山市の国際的なプレゼンスを高め、「文学による心豊かなまちづくり」を推進する。

「おかやまマラソン」の開催、「魅せる」アリーナやその周辺環境の整備に

より、県内外から多くの人を集め、まちに活力と賑わいを創出するとともに、市民の心の豊かさや地域への愛着と誇りの醸成をめざす。

また、トップチームへの支援やナショナルチーム等のキャンプ誘致、大規模なスポーツ大会の開催支援等により、スポーツの振興とともに国内外への岡山市のPRや地域振興につなげる。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
過去1年間に文化芸術を体験(参加・鑑賞)した人の割合	57.5% (R5)	65% (R11)

(3) 持続可能で活力ある農林水産業の振興

①農林水産業の生産性向上・高付加価値化

岡山市就農サポートセンターの活用を促進するほか、就農相談会等をはじめ、短期体験や関係機関と連携した実務研修等の実施等、就農希望者の状況に応じたきめ細やかな対策により新規就農者の確保を図るとともに、農福連携等の推進により、地域農業を支える多様な人材の活用を促進する。

持続可能な農業経営の確立に向け、新たな栽培技術やスマート農業の導入を支援するなど、生産性の向上や安定生産を促進する。

加えて、優良農地の確保や農地の集積・集約化等を推進するとともに、地域住民が共同で行う農地・農業用施設の保全活動等、地域活性化に向けた取組を支援する。

品質の高い市内産農産物について、PR活動や6次産業化等の支援、地産地消の推進や農産物のブランド力強化を通じて、農産物の高付加価値化と魅力発信を進める。

森林公園や林道等の維持管理のほか、ノリ養殖の生産基盤の強化や岡山産ノリの消費拡大等に取り組むとともに、漁場資源の回復や漁場環境の保全活動の取組を推進し、漁業経営の安定化を図る。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
新規就農者数	31 人	150 人(R8～R12 の合計)

主な事務事業

(1) 地域経済の活性化を促進する産業の振興

①地域経済の持続的な発展に向けた事業成長の支援

事業名	内容
設備投資支援事業	・ 生産性向上や競争力強化に資する設備投資支援のための経費補助
デジタル化支援事業	・ 市内中小企業のＩＴツールの活用や、ＩｏＴ・ＡＩ等先端技術の導入など各種デジタル化に向けた支援の実施
創業支援事業	・ 開業に必要な知識の習得や事務手続きに関する個別相談等を行い、開業しやすい環境づくりを実施 ・ 岡山市での創業を促進するための補助
販路開拓支援事業	・ 市内中小企業のマーケティング活動や見本市出展等の支援を実施

②新たな価値を生み出すイノベーション創出の促進

事業名	内容
スタートアップ支援事業	・ スタートアップ支援拠点「ももスタ」を中心とするスタートアップの裾野拡大や成長の支援 ・ スタートアップを取り巻くステークホルダーとの有機的な連携の推進や起業家コミュニティの発展の支援 ・ 行政課題の解決とスタートアップの成長のための先進技術社会実証の支援 ・ スタートアップ・エコシステム拠点都市としての地域間相互連携支援
新規事業創出支援事業	・ 企業の新規事業創出の取組に関し、伴走支援や経費の支援を実施 ・ 新規事業の創出に向けた課題の洗い出しや計画策定、試作品の開発・検証等による伴走支援を実施 ・ 新規事業を創出するために必要な技術等を持つ企業との協業や事業化に向けた実証を支援

③安定した経営を可能にする事業環境の整備

事業名	内 容
事業承継支援事業	・ 後継者不在の課題を抱える事業者の円滑な事業承継を支援するための人材育成と地域における支援体制の充実 ・ 中小企業における親族・従業員承継の早期検討と承継に当たっての課題解決を支援するため、事業承継計画の作成等に要する経費を補助
経営安定化支援事業	・ 中小企業の資金繰り支援や中小企業診断士等の専門家による相談支援体制の充実
商業振興・商店街活性化事業	・ 商店街等の魅力向上・活性化に対する支援 ・ 商店街の空き店舗解消に対する支援 ・ 地域商業の新たな担い手の創出・育成
雇用対策等事業	・ 幅広い世代を対象とした就職支援事業による市内企業の人材確保の支援 ・ 市内企業の企業情報の収集・整理及び大学生等への提供による情報発信 ・ 新規卒卒者等を対象とした合同企業説明会の実施 ・ 市内企業への就職促進のための、県内外の学生と市内企業との交流の場の創出 ・ 外国人留学生等と企業の交流の場の創出等による市内企業の人材確保の支援
学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト[再掲]	・ 学生が地域や市内企業等との協働により実施する地域課題の解決等に資する活動への支援

(2) 歴史・文化・スポーツ等をいかした新たな価値と魅力の創出や観光誘客の促進

①観光の振興と情報発信力の強化

事業名	内 容
観光資源の魅力アップ事業	・ 烏城灯源郷と幻想庭園の同時開催、岡山城の夜間利用等ナイトタイムエコノミーの実施 ・ 倉敷市等他都市との連携を通じた日本遺産をはじめとする広域周遊観光の促進 ・ 瀬戸内海沿岸の都市や西のゴールデンルートアライアンス等と連携した情報発信や、岡山をベース宿泊地とする広域周遊観光等の促進 ・ 戦国宇喜多家や日本遺産をはじめとする歴史・文化遺産を活用した情報発信、受入体制の整備 ・ デジタル技術を活用した新たな魅力創出 ・ 郷土に根付いた芸能の振興と民謡の普及促進
岡山まつり開催事業	・ うらじゃに代表されるおかやま桃太郎まつり、国の重要無形民俗文化財に指定されている西大寺会陽など、岡山らしさを味わえるまつりの開催

事業名	内 容
観光施設の活用事業	・ 岡山城や市内各地の観光施設等の適切な維持管理、有効活用など、受入体制の整備
おかやま観光情報発信事業 (プロモーション)	・ 「桃太郎」をテーマとした情報発信や観光誘客イベントの開催、観光素材の創出による観光客が楽しむことができる観光地づくりの推進

②外国人観光客誘客と受け入れ体制の整備

事業名	内 容
おかやま観光情報発信事業 (インバウンド推進)	・ 台湾、中国、韓国などの東アジアやフランスをはじめとした欧米、東南アジアなど、ターゲットを絞ったプロモーションの実施 ・ 関係自治体との共同による東南アジア方面からのムスリム（イスラム教徒）観光客の受入体制の整備 ・ 外国人旅行者への宿泊費の助成

③M I C E 誘致の推進

事業名	内 容
M I C E 誘致対策事業	・ コンベンション開催補助金の交付をはじめとする各種コンベンション開催支援 ・ 情報収集、セミナーの開催、M I C E 主催者へのセールス等の誘致活動 ・ ミーティングやインセンティブ旅行への支援の実施

④文化芸術・スポーツの振興

事業名	内 容
岡山フィルハーモニック管弦楽団の活動支援	・ 県内唯一のプロオーケストラである岡山フィルハーモニック管弦楽団の運営支援を通じた、プロの演奏に触れる機会の増加や都市の魅力向上
文化芸術に親しむ事業	・ 国際現代美術展「岡山芸術交流」の開催等 ・ 「おかやまアーツフェスティバル」の開催 ・ 子どもたちに文化体験の機会を提供する事業等の実施
文学創造都市事業	・ 文学による心豊かなまちづくりに向けた、創造活動の活発化、国内外への情報発信 ・ 岡山市出身の坪田譲治を顕彰する「坪田譲治文学賞」と市民の創作活動を奨励する「市民の童話賞」の実施 ・ おかやま文学フェスティバルの開催
トップチーム支援事業	・ 市民デーでの各種イベントの開催や選手との交流イベント等への支援
おかやまマラソン	・ 岡山県や関係団体との共同による「おかやまマラソン」の開催 ・ 各種関連事業の実施による、岡山の魅力発信

事業名	内容
アリーナ整備事業	・ アリーナの整備

(3) 持続可能で活力ある農林水産業の振興

①農林水産業の生産性向上・高付加価値化

事業名	内容
農業の担い手の確保・育成事業	・ 就農相談会や農業体験研修等の実施による新規就農の促進 ・ 新規就農者への奨励金給付や就農直後の経営確立に資する資金の交付 ・ 農福連携など多様な人材活用の促進
農業経営力向上対策事業	・ 水田農業の大規模化、地域振興作物の産地化などへの支援 ・ 園芸作物や米・麦・大豆等の生産性向上に必要なスマート農業機械の導入や設備整備等への支援

基本目標3 岡山市への新たな人の流れをつくる

【数値目標】

■企業立地・再投資件数

7件（R6）→ 65件（R8～R12の合計）（R12）

■地域活動への参加割合

全世代 43.3%（R5）→ 49.9%（R11）

若者（20歳代以下） 23.3%（R5）→ 29.3%（R11）

■移住相談件数

2,000件（R6）→ 10,000件（R8～R12の合計）（R12）



基本的方向

（1）拠点性をいかした企業等の誘致

中四国のゲートウェイとしての優れた広域拠点性や、災害リスクの低さなどの優位性をいかし、製造工場や物流施設、企業の本社機能や中四国支店等の広域的な営業拠点等の立地を推進することで、地域経済の活性化や雇用の創出を図るとともに、政府関係機関の移転の動向を注視し、必要な対応を図っていく。

（2）大学や経済界等との連携

NPO等の市民活動団体や、大学をはじめとする産官学金労言士等の地域のステークホルダーなど、多様な主体が連携・協働する「人材の新結合」により、他の地域の好事例も学びながら、多様化・複雑化する社会課題の解決をめざす。

（3）移住・定住の推進

岡山市の暮らしやすさや魅力が伝わる情報発信の強化や首都圏・関西圏での移住者誘致に取り組み、地域経済や社会を支える人材の確保につなげる。

若者の岡山への定着を進めるため、まちづくりへの参加や地域とつながる仕組み作りを通して地域への愛着の醸成を図るとともに、若者の働き方に関するニーズ等の把握に努め、若者が岡山で希望する働き方を実現できる環境整備を進める。

（4）関係人口の創出・拡大

岡山市の魅力や特色を首都圏等、広く市外へ情報発信することで、地域活性化につながる関係人口の創出・拡大に取り組むとともに、岡山市への人材や資金の流れの拡大を図る。

具体的な施策と重要業績指標（KPI）

（１）拠点性をいかした企業等の誘致

①企業立地の推進

中四国のゲートウェイとしての優れた広域拠点性や災害リスクの低さ、大学等が多く人材が豊富であるといった岡山市の優位性をいかし、製造工場や物流施設、企業の本社機能や中四国支店等の広域的営業拠点、ＩＴ・デジタルコンテンツ産業等の立地を促進するとともに、企業用地の確保に向けて、地域未来投資促進法の活用や産業拠点周辺の市街化調整区域での開発許可の緩和により企業の投資を促進する。

市内に本社を有する企業の本社機能の拡充や、市内に立地する製造業の設備等への再投資の支援など、市内立地企業の拠点強化及び機能強化を図り、市外への流出を防止する。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
企業立地・再投資件数	7 件	65 件(R8～R12 の合計)

②政府関係機関の誘致

東京一極集中を是正するため、平成 28 年 3 月に決定した政府関係機関移転基本方針に基づき、これまで様々な国の機関の地方移転が実施されてきた。今後も引き続き国の動向を注視し、必要な対応を図っていく。

（２）大学や経済界等との連携

①連携による社会課題解決の推進

NPO等の市民活動団体や、企業、大学など多様な主体と連携し協働を推進するとともに、協働の場や情報発信を通じて地域活動の担い手づくりと相互理解を促進する。

産官学金労言士等の地域のステークホルダーが知恵を出し合い、他地域の好事例も学びながら、多様化・複雑化する社会課題の解決をめざす。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
地域活動への参加割合		
上段: 全世代	43.3% (R5)	49.9% (R11)
下段: 若者 (20 歳代以下)	23.3% (R5)	29.3% (R11)

(3) 移住・定住の推進

①魅力発信・希望者支援による移住・定住の促進

若い世代をはじめとした今後の社会・経済を支える層に向けて、「暮らすまち・働くまち」としての岡山市の魅力をSNS等により積極的に発信するとともに、首都圏・関西圏における岡山での就職支援を核とした相談窓口の設置や移住希望者等のニーズを踏まえた支援施策に取り組む。

若者の岡山への定着を進めるため、まちづくりへの参加や地域とつながる仕組みづくりを通じて地域への愛着を醸成するとともに、若者が働きやすい環境づくりや市内企業等の情報提供を行う。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
移住相談件数	2,000 件	10,000 件 (R8～R12 の合計)

(4) 関係人口の創出・拡大

①市外への魅力発信強化

岡山市の魅力や特色を首都圏など市外へ積極的に発信し、関係人口の創出・拡大と地域活性化を図る。

②地方への資金の流れの創出・拡大

民間企業の参画を促す「地方創生応援税制」等を活用することで、活力ある地域の創出を図る。

主な事務事業

(1) 拠点性をいかした企業等の誘致

①企業立地の推進

事業名	内容
企業立地推進事業	・ 地域未来投資促進法の活用や産業拠点周辺の市街化調整区域での開発許可の緩和による企業の用地確保を支援 ・ 製造工場や物流施設の立地に対する補助 ・ 市内既存工場等の再投資・拠点強化に対する補助 ・ 本社・中四国支店等広域的拠点やIT・デジタルコンテンツ産業等の立地企業に対する補助

(2) 大学や経済界等との連携

①連携による社会課題解決の推進

事業名	内容
市民協働推進事業[再掲]	・ 市民と行政との協働によって岡山市の社会課題解決を図る事業への経費の一部助成 ・ 市民と行政双方から課題を提案し解決方法を検討するワークショップの開催
大学や経済界等との連携	・ 「おかやま地域発展協議体」をプラットフォームとした市内大学や経済界との各政策分野での連携の推進 ・ 包括連携協定に基づく大学や民間企業の資源・知見を活用した、地域の社会問題の解決に資する検討・研究
学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト	・ 学生が地域や市内企業等との協働により実施する地域課題の解決等に資する活動への支援

(3) 移住・定住の推進

①魅力発信・希望者支援による移住・定住の促進

事業名	内容
移住定住促進事業	・ 東京、大阪における移住希望者の就職支援を主とした相談窓口の運営 ・ 移住に伴う仕事や住まいに関する補助、岡山県、岡山連携中枢都市圏の市町等との協働によるセミナーや座談会等の開催、首都圏・関西圏等での移住相談会への参加等の移住支援 ・ 移住支援の専用ウェブサイト、Instagram等SNSを活用した情報発信
雇用対策等事業[再掲]	・ 幅広い世代を対象とした就職支援事業による市内企業の人材確保の支援 ・ 市内企業の企業情報の収集・整理及び大学生等への提供による情報発信 ・ 新規卒卒者等を対象とした合同企業説明会の実施 ・ 市内企業への就職促進のための、県内外の学生と市内企業との交流の場の創出 ・ 外国人留学生等と企業の交流の場の創出等による市内企業の人材確保の支援
学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト[再掲]	・ 学生が地域や市内企業等との協働により実施する地域課題の解決等に資する活動への支援

基本目標 4 デジタルなどの新技術の活用や広域連携を推進する



【数値目標】

■学校が学びやすく安全などに配慮した環境を整えていると感じる保護者の割合

89.5%（R6） → 90%以上（R12）

■岡山市に住みたいと考える市民の割合

77.1%（R5） → 85%（R11）

基本的方向

（1）DXの推進

DXの推進を支える人材の確保・育成に努めるとともに、AI等のデジタル技術を活用し、教育や行政手続きのオンライン化、業務効率化を進める。また、市内企業の持続的な発展を実現するため、デジタル化や設備投資支援等を行う。

（2）圏域をリードする広域連携の推進

連携中枢都市圏をはじめとする住民の生活圏を基礎とした近隣自治体や、より広い圏域を視野に入れた自治体との連携施策を推進する。

具体的な施策と重要業績指標（KPI）

（1）DXの推進

①地域社会のDXの推進

GIGAスクール構想やスマート農業など、地域社会や産業分野でのデジタル化を推進するとともに、市内企業のデジタル化や設備投資支援を通じて、生産性向上を図る。

消防・防災分野でもデジタル技術を活用し、迅速・的確な災害対応力の強化をめざす。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
学校が学びやすく安全などに配慮した環境を整えていると感じる保護者の割合	89.5%	90%以上

②DXによる市民サービス向上・行政事務効率化

DXを支える人材の確保・育成やデジタル技術の活用により、行政手続きのオンライン化や業務効率化を推進する。

多様で柔軟な働き方や組織の最適化を進め、時代の変化に対応できる市役所づくりと市民サービスの向上を図る。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
主な証明書のコンビニ交付サービスによる交付率	31.4%	60%

(2) 圏域をリードする広域連携の推進

①市域を越えた連携の推進

岡山連携中枢都市圏をはじめとする住民の生活圏を基礎とした近隣自治体や、より広い圏域を視野に入れた自治体との連携を強化し、持続可能な活力ある地域づくりを推進する。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R6)	最終目標値 (R12)
岡山市に住み続けたいと考える市民の割合	77.1% (R5)	85% (R11)

主な事務事業

(1) DXの推進

①地域社会のDXの推進

事業名	内容
教育DX推進事業	・ 経験年数やスキルごとの研修の実施や市内の先進校による授業公開 ・ ICT教育支援員のオンラインサポートによる教員の支援 ・ GIGAスクール運営支援センター等による障害対応の充実 ・ 外部セキュリティ対策専門サービスの導入による安全性の向上 ・ GIGAスクール構想実現に向けて配備された一人一台端末を有効に利用するための校内ネットワーク等の整備

②DXによる市民サービス向上・行政事務効率化

事業名	内容
窓口サービスの向上	・ 証明書のコンビニ交付や行政手続きのオンライン化の推進 ・ 窓口手続きの負担を軽減するための書かない窓口の推進 ・ 公金支払手続きのデジタル化の推進
業務の効率化	・ AI、RPA等のデジタル技術の活用や、業務プロセス等の抜本的な見直し ・ 情報システムの標準化・共通化 ・ ペーパーレス化の推進や、オンライン会議の活用等のワークスタイルの見直し

(2) 圏域をリードする広域連携の推進

①市域を越えた連携の推進

事業名	内容
連携中枢都市圏ビジョンに基づく連携取組の推進	・ 「岡山連携中枢都市圏ビジョン」に基づく連携取組の推進 ・ 8市5町の首長で構成する岡山都市圏連携協議会を中心とする、連携取組の推進に向けた協議
瀬戸内4県都市の連携推進	・ 岡山市・広島市・高松市・松山市で構成する「瀬戸内4県都市長会議」の定期的な開催、連携施策の推進

参 考

1. 第3期総合戦略とSDGs目標の関連一覧表

基本目標 SDGsの17のゴール		基本目標1	基本目標2	基本目標3	基本目標4
		愛着と誇りをもち、 安心して働き暮らせる まちをつくる	まちの「稼ぐ力」を高め、 魅力と活力あふれる まちをつくる	岡山市への 新しいひとの流れを つくる	デジタルなどの 新技術の活用や 広域連携を推進する
	①貧困をなくそう	○			
	②飢餓をゼロに	○			
	③すべての人に健康と福祉を	○	○		
	④質の高い教育をみんなに	○	○		○
	⑤ジェンダー平等を実現しよう	○			○
	⑥安全な水とトイレを世界中に	○			
	⑦エネルギーをみんなに、 そしてクリーンに	○			
	⑧働きがいも経済成長も	○	○	○	○
	⑨産業と技術革新の基盤をつくろう	○	○		○
	⑩人や国の不平等をなくそう	○			
	⑪住み続けられるまちづくりを	○	○	○	○
	⑫つくる責任つかう責任	○			
	⑬気候変動に具体的な対策を	○	○		
	⑭海の豊かさを守ろう	○	○		
	⑮陸の豊かさを守ろう	○	○		
	⑯平和と公正をすべての人に	○			
	⑰パートナーシップで目標を 達成しよう	○		○	

2. 対応表

2-1 第3期総合戦略と岡山市第七次総合計画前期中期計画との対応表

岡山市第七次総合計画 前期中期計画 第3期総合戦略		都市づくりの基本方向							
		基本方向1 こども・若者が健やかに成長し、安心して子育てができるまちづくり (こども・子育て・教育)	基本方向2 一人ひとりが活躍でき、ともに創る市民主体のまちづくり (協働・多様性)	基本方向3 ともに支え合い、誰もが自分らしくいきいきと暮らせるまちづくり (健康・福祉)	基本方向4 魅力と活力にあふれ成長を続けるまちづくり (産業・交流)	基本方向5 新たな価値と魅力を創造する心豊かなまちづくり (歴史・文化・スポーツ)	基本方向6 災害に強く、地域で支え合う安全・安心なまちづくり (安全・安心)	基本方向7 都市と自然が調和する、未来につながるまちづくり (都市・環境)	基本方向8 圏域をリードし、まちの持続的発展を支える都市経営 (都市経営)
基本目標1 愛着と誇りをもち、安心して働き暮らせるまちをつくる	(1)こども・若者が輝き、安心して子育てができるまちづくり	○							
	(2)多様な主体による活力ある地域づくり	○	○		○			○	
	(3)若者や女性にも選ばれるまちづくり	○	○		○				○
	(4)健康寿命の延伸と豊富な医療・介護資源をいかした地域づくり			○					
	(5)安全・安心に暮らせるまちづくり						○		
	(6)将来を見据えた持続可能なまちづくり				○		○	○	
基本目標2 まちの「稼ぐ力」を高め、魅力と活力あふれるまちをつくる	(1)地域経済の活性化を促進する産業の振興				○				
	(2)歴史・文化・スポーツ等をいかした新たな価値と魅力の創出や観光誘客の促進				○	○			
	(3)持続可能で活力ある農林水産業の振興				○				
基本目標3 岡山市への新しいひとの流れをつくる	(1)拠点性をいかした企業等の誘致				○				
	(2)大学や経済界等との連携		○						
	(3)移住・定住の推進				○				
	(4)関係人口の創出・拡大				○				
基本目標4 デジタルなどの新技術の活用や広域連携を推進する	(1)DXの推進	○			○		○		○
	(2)圏域をリードする広域連携の推進							○	○

2-2 第3期総合戦略と国の地方創生に関する総合戦略との対応表

第3期岡山市地方創生総合戦略		国の地方創生に関する総合戦略政策目標		
基本目標	具体的な施策	強い経済	豊かな生活環境	選ばれる地方
基本目標1 愛着と誇りをもち、 安心して働き暮らせる まちをつくる	(1) こども・若者が輝き、安心して子育てができるまちづくり		○	
	(2) 多様な主体による活力ある地域づくり		○	
	(3) 若者や女性にも選ばれるまちづくり			○
	(4) 健康寿命の延伸と豊富な医療・介護資源をいかした地域づくり		○	
	(5) 安全・安心に暮らせるまちづくり		○	
	(6) 将来を見据えた持続可能なまちづくり	○	○	
基本目標2 まちの「稼ぐ力」を高め、 魅力と活力あふれる まちをつくる	(1) 地域経済の活性化を促進する産業の振興	○		
	(2) 歴史・文化・スポーツ等をいかした新たな価値と魅力の創出や 観光誘客の促進	○		
	(3) 持続可能で活力ある農林水産業の振興	○		
基本目標3 岡山市への新しいひとの 流れをつくる	(1) 拠点性をいかした企業等の誘致	○		
	(2) 大学や経済界等との連携			○
	(3) 移住・定住の推進			○
	(4) 関係人口の創出・拡大			○
基本目標4 デジタルなどの新技術の 活用や広域連携を 推進する	(1) DXの推進	○	○	
	(2) 圏域をリードする広域連携の推進		○	

3. 人口ビジョン

3-1 岡山市の人口の現状分析

3-1-1 国及び県の人口動向

(1) 我が国の人口推移と長期的な見通し

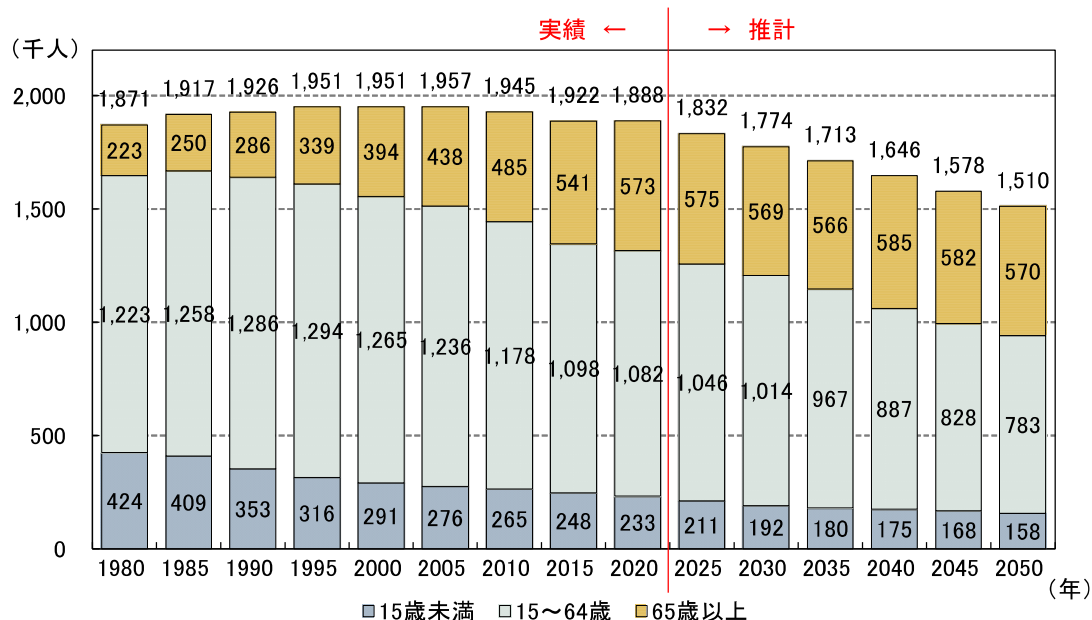
我が国の総人口は、2008(平成 20)年の約 1 億 2,808 万人をピークに減少局面に入り、2060(令和 42)年には 9,284 万人となると見込まれている。また、出生数・出生率の低迷により、親となりうる世代の人口が減少している一方、総人口に占める高齢者世代の割合が増加しており、2060(令和 42)年には 38%を超える水準まで高まると推計されている。

(2) 岡山県の人口推移と将来の見通し

岡山県の人口は 2005(平成 17)年の 195 万 7 千人をピークに減少に転じ、2050(令和 32)年の人口は 2020(令和 2)年より 20%少ない 151 万人となることが見込まれている。

年少人口(0～14 歳)、生産年齢人口(15～64 歳)は減少し続ける一方、高齢者人口(65 歳～)は 2025(令和 7)年頃まで増加が続き、その後は 57 万人前後で推移する見込みとなっている。

図表 1 岡山県の人口推移と将来の見通し



注：年齢3区分別の実績値には年齢不詳を含まないため、総数と年齢3区分別の値の合計は一致しない。
資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」

人口ビジョン中、「日本人のみ。」と注釈を付していない図表は外国人を含む。

3-1-2 岡山市の人口分析

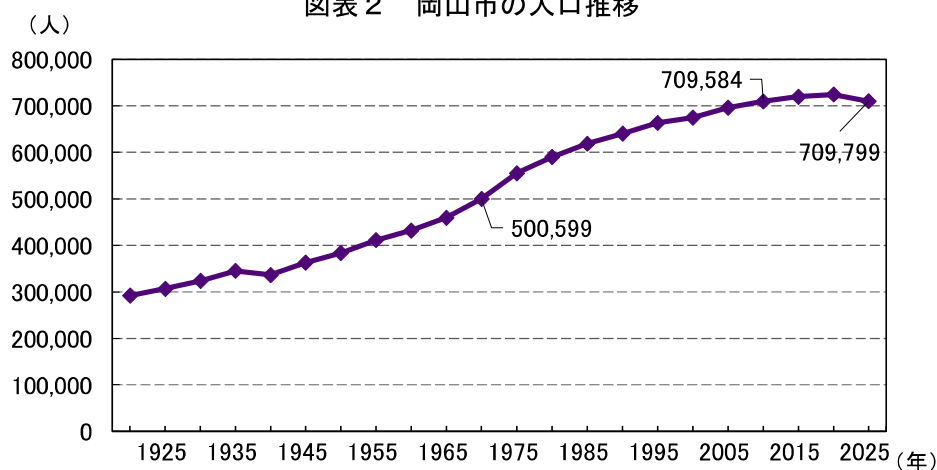
(1) 人口推移と将来の見通し

① これまでの人口推移

岡山市の人口は、高度経済成長期に、周辺市町村との合併が進んだことなどにより、1970(昭和 45)年には人口が 50 万人を超え、2007(平成 19)年には、推計人口が 70 万人を突破し、2009(平成 21)年 4 月に政令指定都市に移行した。

2025(令和 7)年 10 月 1 日現在の推計人口は、709,799 人となっている。

図表 2 岡山市の人口推移



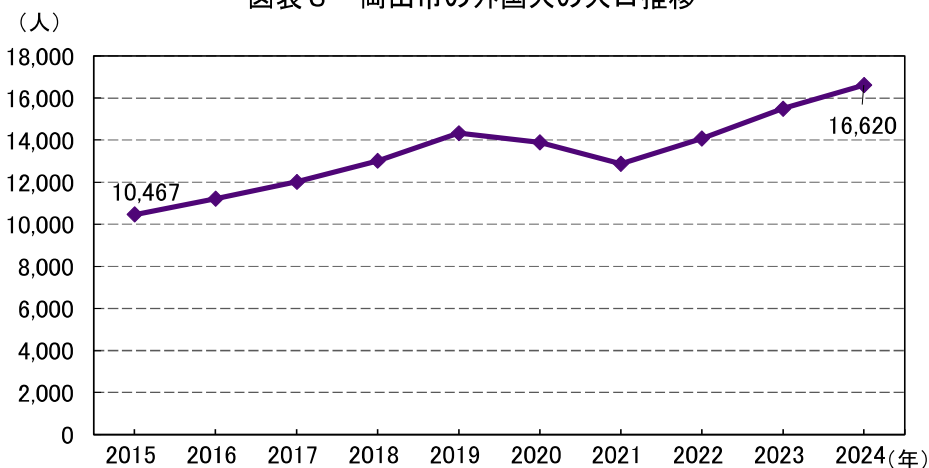
注：人口等は現在市域。人口総数には年齢「不詳」を含む。

資料：総務省「国勢調査」、2025(令和 7)年は岡山県「毎月流動人口調査(令和 7 年 10 月 1 日)」

② 外国人人口の推移

岡山市の外国人人口は 2015(平成 27)年以降増加傾向で推移していたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、2020(令和 2)年から 2021(令和 3)年にかけて落ち込みが見られた。しかし、その後は再び増加傾向となっており、2024(令和 6)年時点では 16,620 人となっている。

図表 3 岡山市の外国人の人口推移



注：人口は各年年末時点

資料：岡山市住民基本台帳

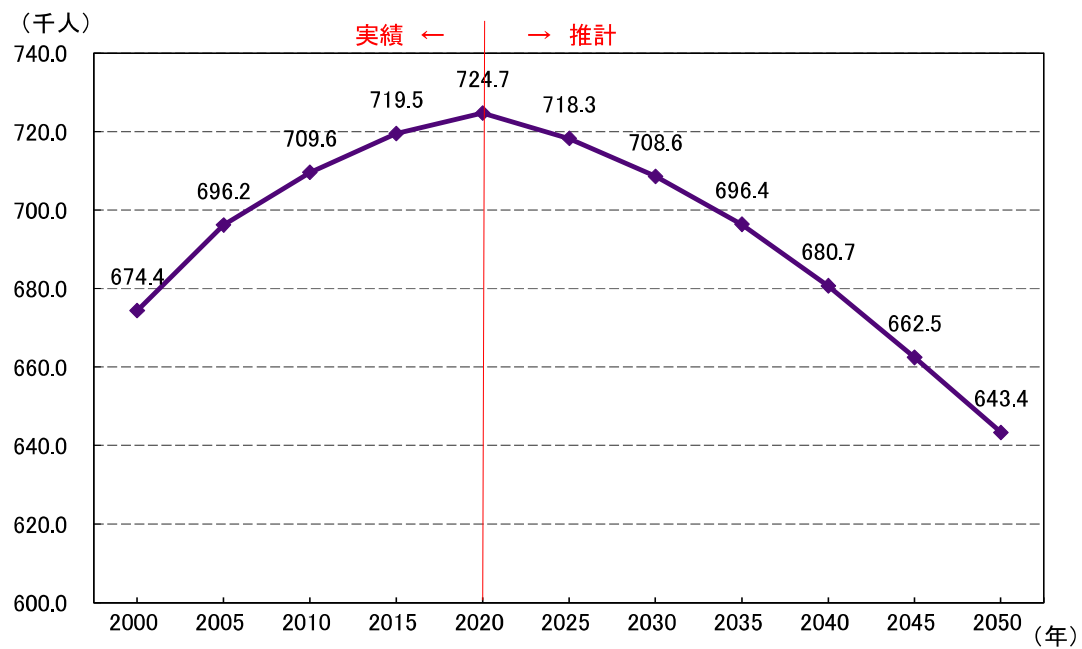
③将来の見通し

ア 岡山市の将来人口推計

2050(令和 32)年までの将来人口推計は、以下のとおりである。

2050(令和 32)年には、2020(令和 2)年より約 8 万 1 千人減少し、約 64 万人となる見込み。

図表 4 岡山市の将来人口推計



注：推計期間は 2025（令和 7）年～2050（令和 32）年

基準人口は 2020（令和 2）年国勢調査による男女 5 歳階級別人口

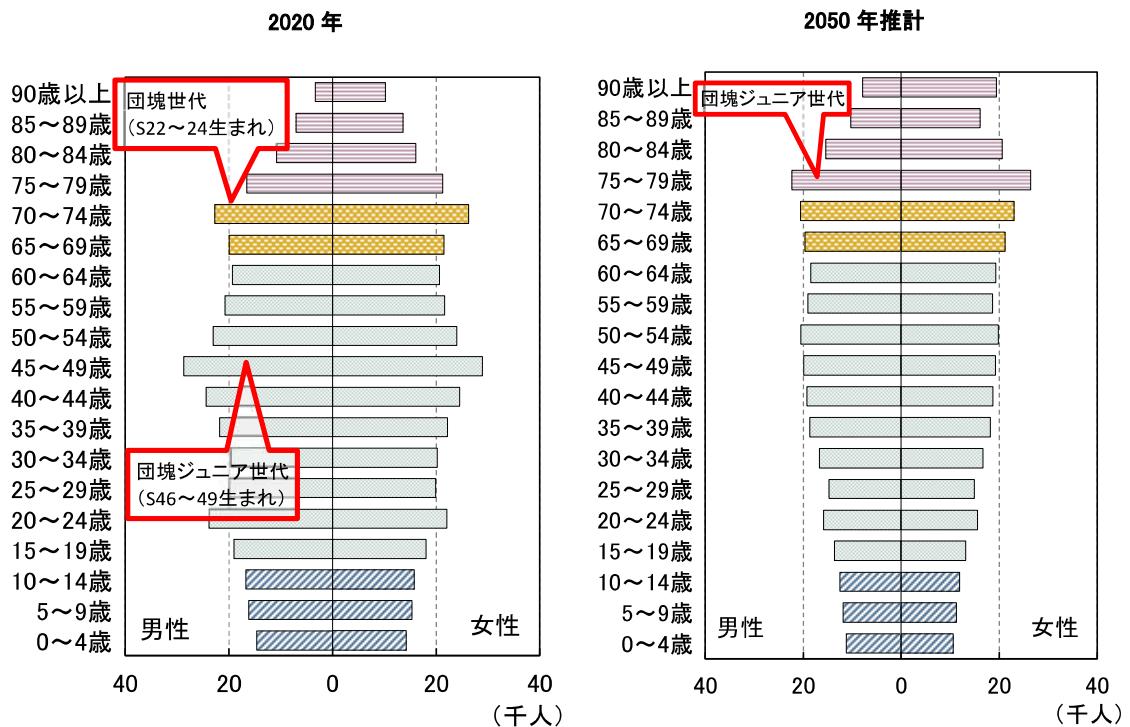
資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和 5 (2023) 年推計)」

イ 年齢別人口の現状と変化

2020(令和2)年と2050(令和32)年の岡山市の人口構成の予測を比較した場合、2020(令和2)年では45～49歳のいわゆる団塊ジュニア世代(第2次ベビーブーム)と呼ばれる年齢層の人口が男女とも最も多く、次いで70～74歳のいわゆる団塊世代(第1次ベビーブーム)と呼ばれる年齢層の人口が多い、「ひょうたん型」となっている。

一方、2050(令和32)年では、人口のピークとなる年齢層が高齢側にシフトする「逆ピラミッド型」に移行する。

図表5 岡山市の年齢別人口(人口ピラミッド)

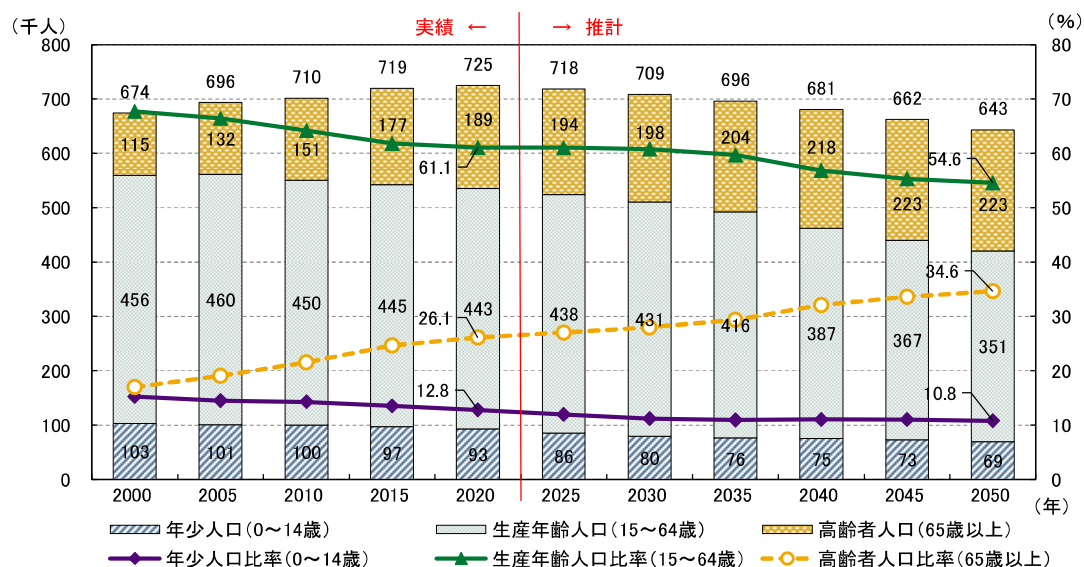


資料：総務省「国勢調査」(実績値)

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」

年少人口は、2020(令和2)年の12.8%から、2050(令和32)年には10.8%に、また、生産年齢人口は、2020(令和2)年の61.1%から、団塊ジュニア世代が65歳以上となる2050(令和32)年には54.6%に低下する。一方、高齢者人口は、2020(令和2)年の26.1%から、2050(令和32)年には34.6%と大幅に上昇する。

図表6 岡山市の将来人口と人口構成比の見通し



注：人口等は現在市域。

注：2010(平成22)年までは人口総数には年齢「不詳」を含む。ただし、人口比率は年齢「不詳」を除いて算出。

2015(平成27)年及び2020(令和2)年の年齢階級別人口は不詳補完値によるため、年齢不詳は存在しない。

2025(令和7)年以降の年齢階級別人口は、総務省「令和2年国勢調査 参考表：不詳補完結果」による年齢不詳をあん分した人口に基づいて算出されていることから、年齢不詳は存在しない。

資料：実績値：総務省「国勢調査」(2015(平成27)年及び2020(令和2)年は不詳補完値による。)

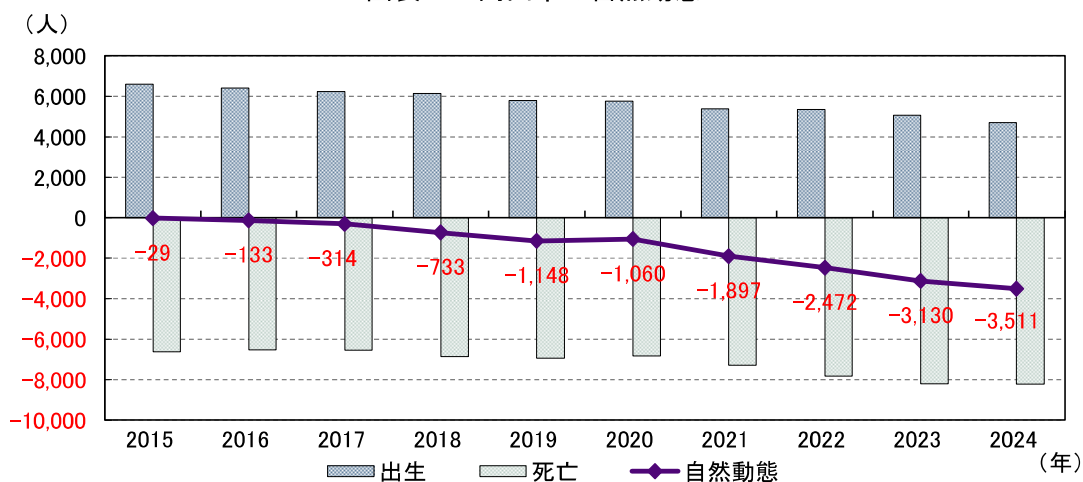
推計値：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」

④人口動態の推移

ア 岡山市（日本人・外国人）の人口動態

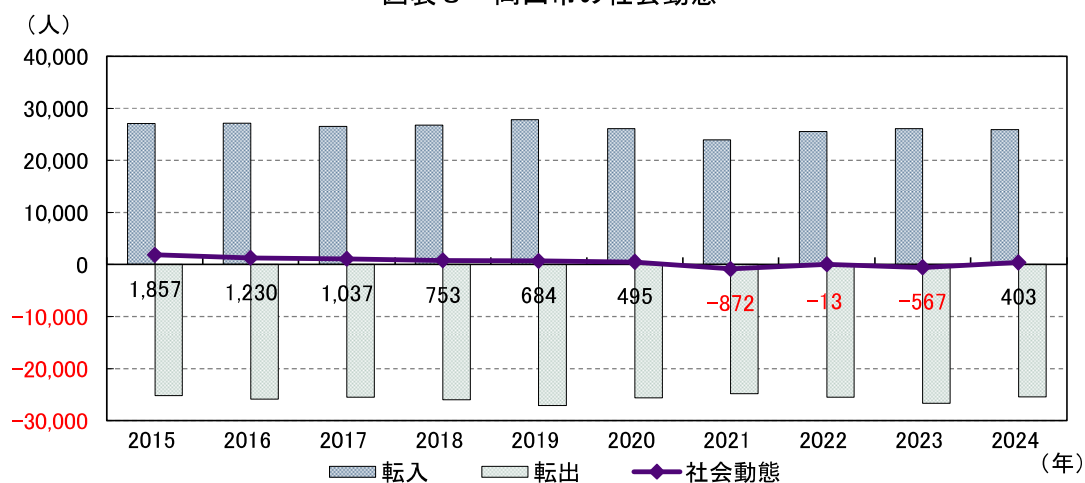
岡山市の人口動態について、自然動態(出生－死亡)は、2015(平成 27)年からマイナスに転じている。社会動態については、2015(平成 27)年から2020(令和 2)年までプラス(転入超過)で推移していたが、2021(令和 3)年から2023(令和 5)年はマイナス(転出超過)となっており、2024(令和 6)年には再びプラスに転じている。

図表 7 岡山市の自然動態



注：データは前年 10 月～9 月 現在の岡山市域
資料：岡山県「毎月流動人口調査」

図表 8 岡山市の社会動態

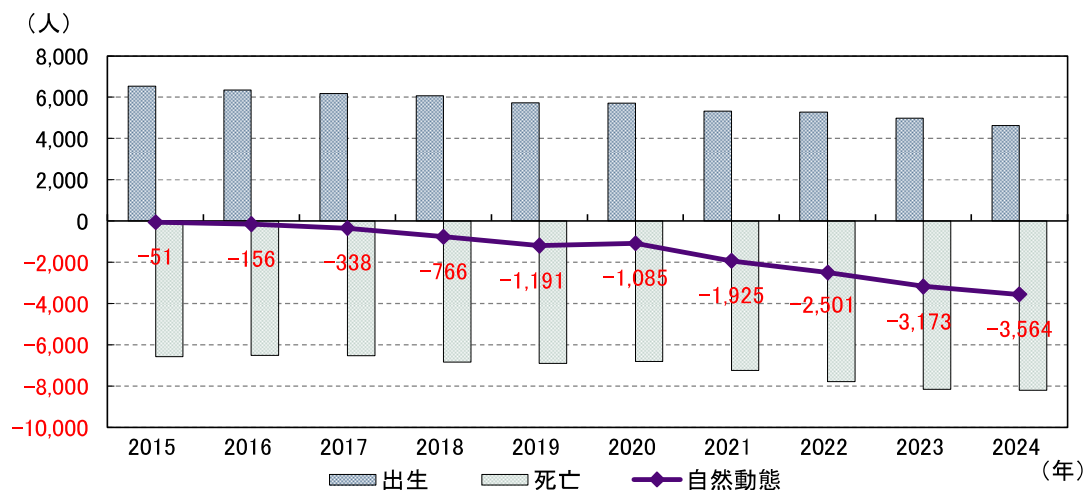


注：データは前年 10 月～9 月 現在の岡山市域
注：「県外移動者」及び「県内移動者」に加え、「その他移動者（職権登録、外国人の日本への帰化、日本人の外国籍への変更、職権消除、日本人・外国人の国籍喪失）」を含んでいる。
資料：岡山県「毎月流動人口調査」

イ 岡山市（日本人）の人口動態

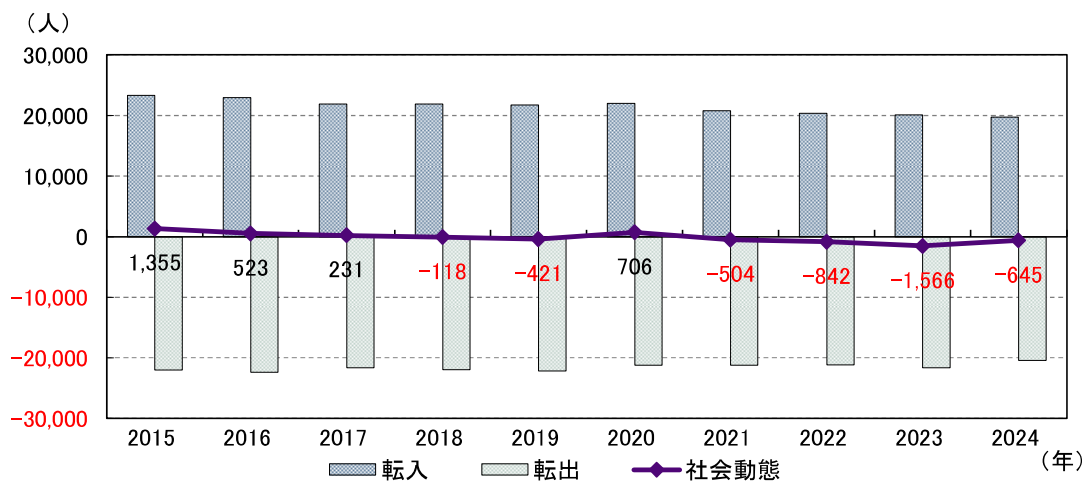
岡山市の日本人の人口動態について、自然動態(出生－死亡)は、2015(平成 27)年からマイナスに転じている。出生数は減少し、死亡数の増加もあいまって、加速的に自然減が進展している。社会動態は 2018(平成 30)年以降、2020(令和 2)年を除いて、マイナスとなっている。

図表 9 岡山市の自然動態（日本人）



注：データは前年 10 月～9 月 現在の岡山市域、日本人のみ
資料：岡山県「毎月流動人口調査」

図表 10 岡山市の社会動態（日本人）

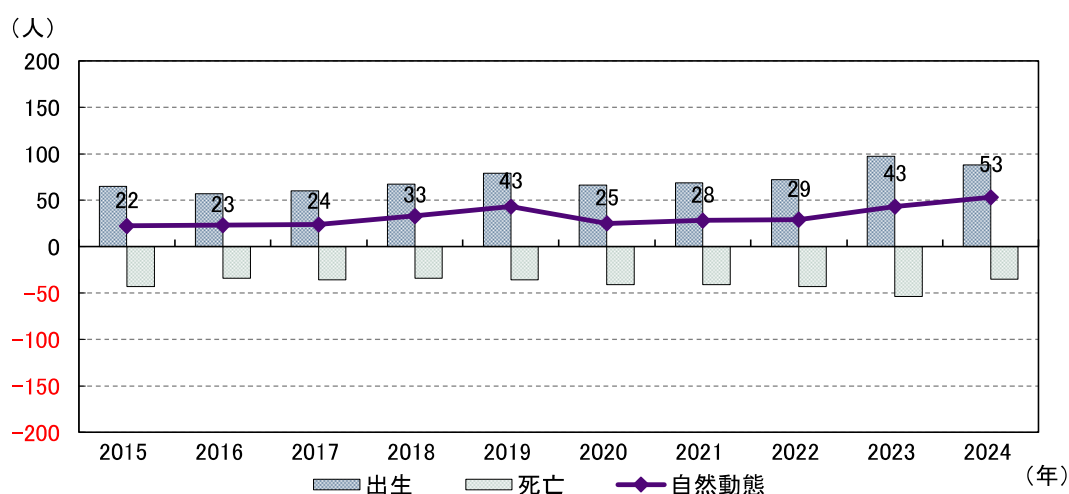


注：データは前年 10 月～同年 9 月 現在の岡山市域、日本人のみ
注：職権登録や日本への帰化は転入、職権削除や日本人の国籍喪失は転出に含める。
資料：岡山県「毎月流動人口調査」

ウ 岡山市（外国人）の人口動態

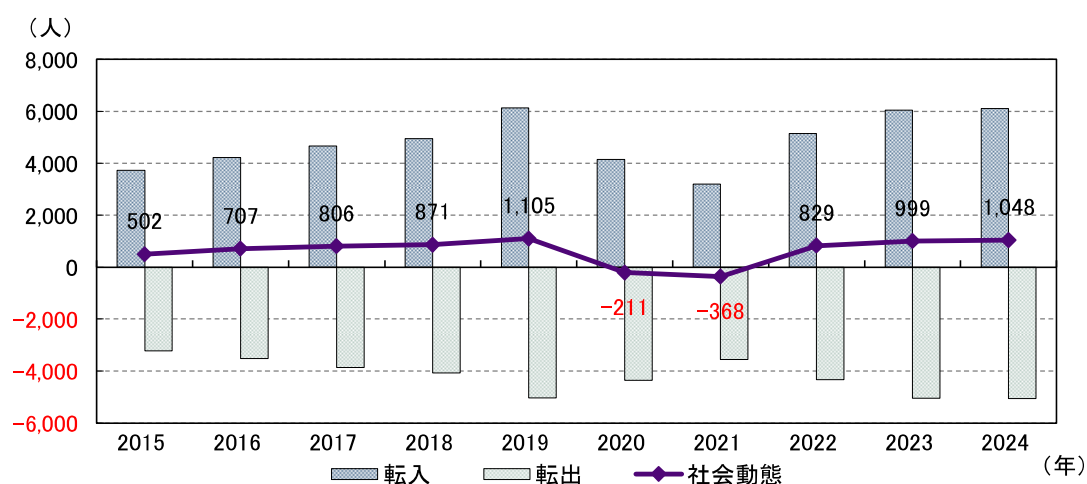
岡山市の外国人の人口動態について、自然動態(出生－死亡)は、2015(平成27)年以降、若干のプラスで推移している。社会動態は、2015(平成27)年から2019(令和元)年にかけて増加傾向となっていたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、2020(令和2)年から2021(令和3)年にかけて落ち込んだ。その後は再び増加傾向となっており、自然動態、社会動態を含めた全体の人口動態では、2024(令和6)年においては約1,100人のプラスとなっている。

図表1-1 岡山市の自然動態（外国人）



注：データは前年10月～9月 現在の岡山市域、外国人のみ
資料：岡山県「毎月流動人口調査」

図表1-2 岡山市の社会動態（外国人）



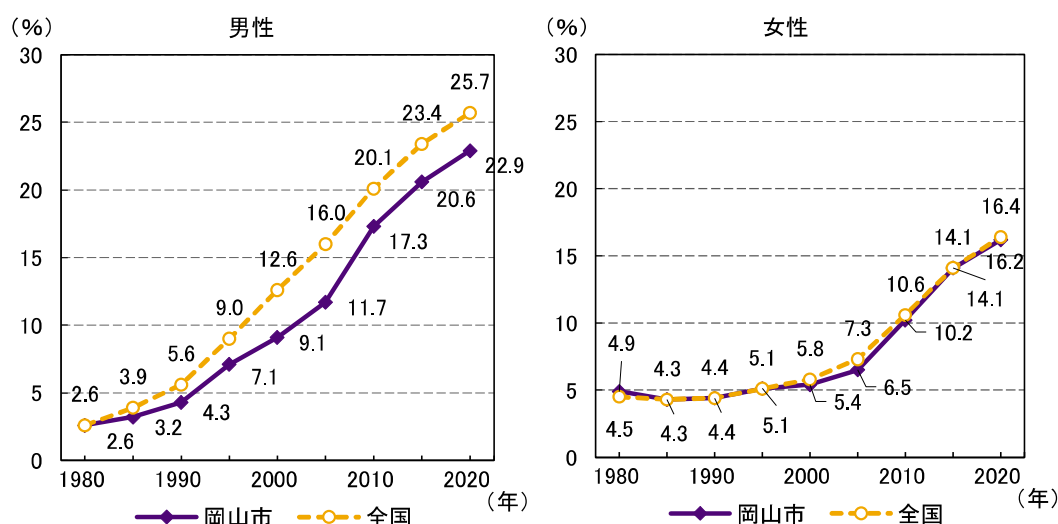
注：データは前年10月～9月 現在の岡山市域、外国人のみ
資料：岡山県「毎月流動人口調査」

(2) 自然動態

① 非婚化・晩婚化の進行

50 歳時未婚率は、男性は全国より低いが、女性は全国と同水準であり、また全国同様、男女とも近年急激に上昇している。男性は 1980(昭和 55)年の 2.6%から 2020(令和 2)年には 22.9%に、女性は 4.9%から 16.2%に上昇しており、上昇傾向は特に男性において顕著である。

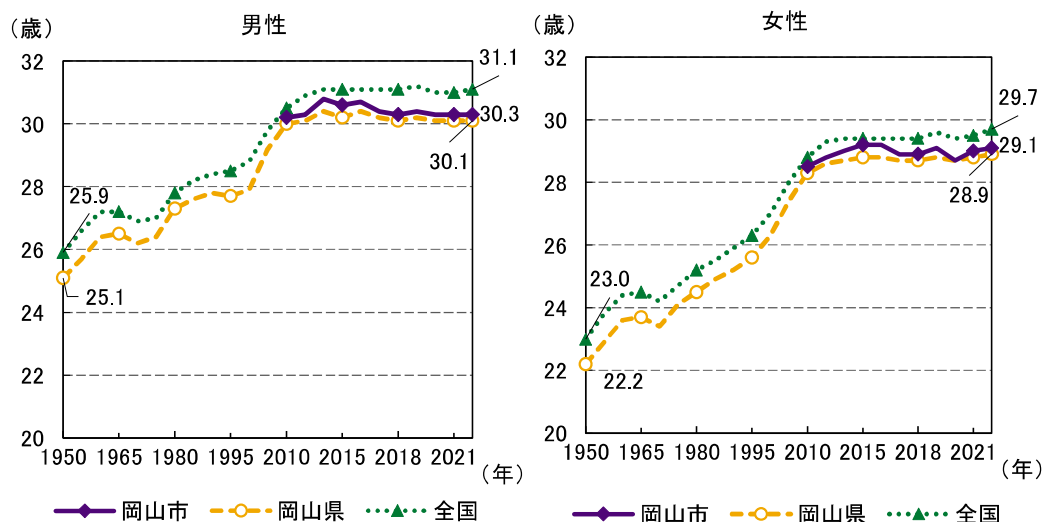
図表 1 3 岡山市の 50 歳時未婚率の推移



注:生涯未婚率;50 歳時の未婚率であり、45～49 歳と 50～54 歳の未婚率の単純平均。
資料:総務省「国勢調査」

また、平均初婚年齢は、男女とも全国平均よりは低く、岡山県の平均よりやや高い。直近ではやや低下しており、上昇傾向に歯止めがかかっているものの、過去には全国同様に上昇傾向が続いていた。こうした背景には、経済的な不安を抱える若者の増加や出会いの場の不足などが影響していると考えられる。

図表 1 4 岡山市の平均初婚年齢の推移

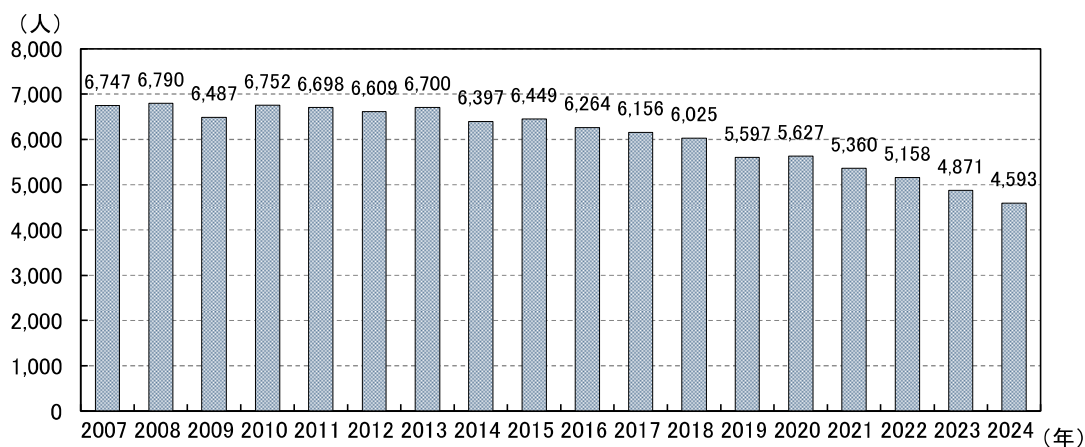


注:日本人のみ。
資料:厚生労働省「人口動態統計」

②出生数の推移

岡山市の出生数は、2009(平成 21)年を除けば概ね 6,600～6,800 人前後で推移していたが、2014(平成 26)年には 6,397 人に減少し、以降減少傾向が続いている。

図表 1 5 岡山市の出生数の推移

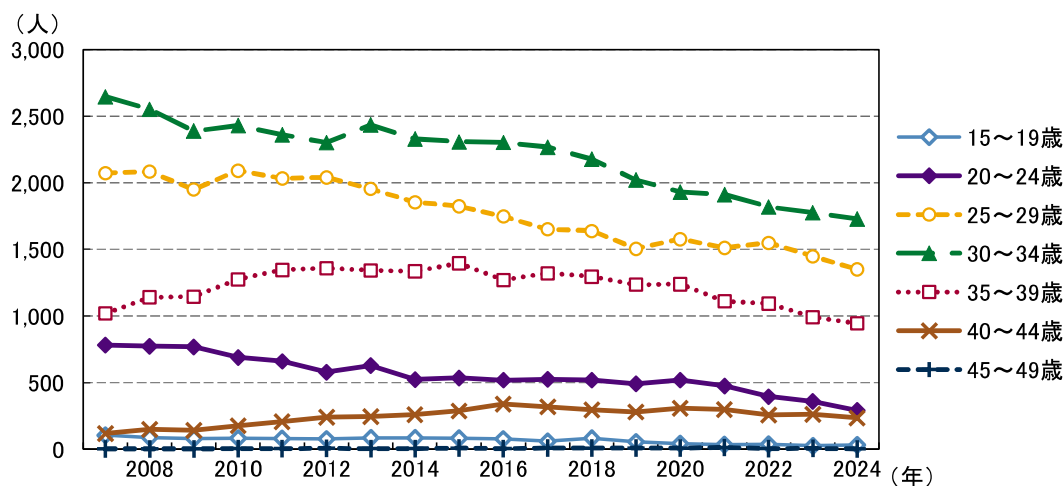


注：日本人のみ。

資料：厚生労働省「人口動態統計」

岡山市の出生数を母の年齢別にみると、20～24 歳、25～29 歳、30～34 歳は減少傾向がみられる一方で、40～44 歳は緩やかに増加している。
出産年齢の高齢化は晩婚化に因るところが大きいものと考えられる。

図表 1 6 母の年齢階級別にみた岡山市の出生数



注：日本人のみ。

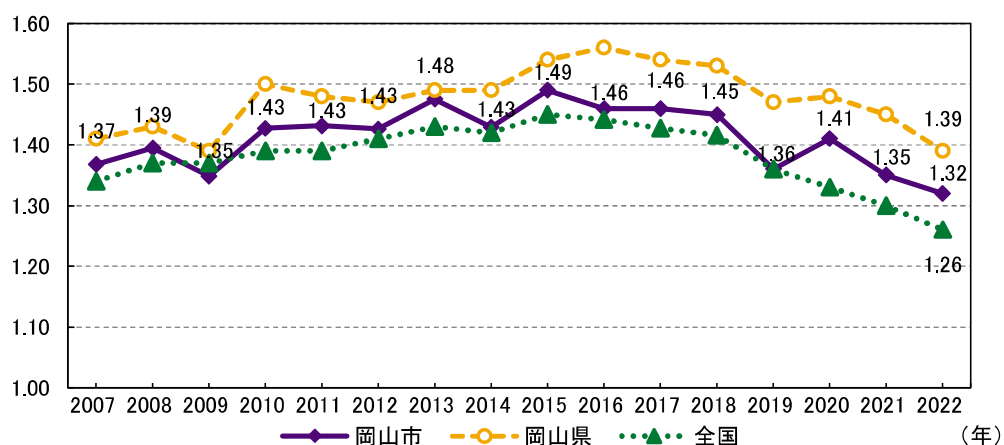
資料：厚生労働省「人口動態統計」

③合計特殊出生率の推移

母の年齢別出生率を合計した岡山市の合計特殊出生率は、岡山県を若干下回るものの、全国より概ね高い水準で推移している。

2010(平成 22)年以降 2018(平成 30)年までは、1.45 前後で推移していたが、2019(令和元)年には 1.36 に低下し、2020(令和 2)年には 1.41 に上昇するものの、その後は低下傾向となっている。

図表 1 7 岡山市の合計特殊出生率の推移



注：日本人のみ。

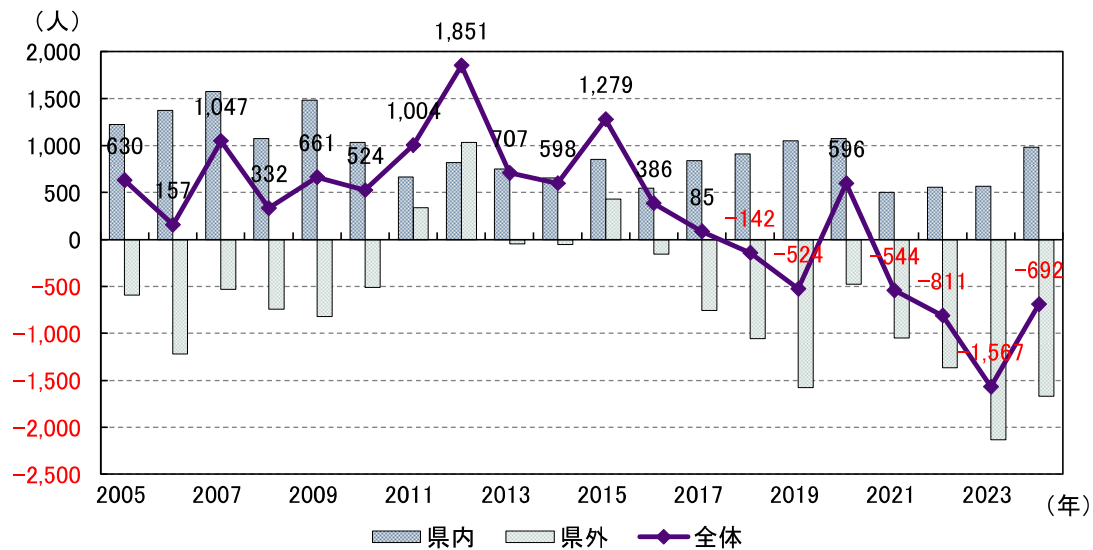
資料：岡山県「衛生統計年報」、全国は「人口動態統計」

(3) 社会動態

① 純移動の推移

岡山市の日本人の社会動態をみると、県内に対しては、純移動(転入－転出)は常にプラス(転入超過)で推移しており、一方、県外に対しては、概ねマイナス(転出超過)で推移している。全体としては、2020(令和2)年には新型コロナウイルス感染症の影響により転入超過となったが、2021(令和3)年に再び転出超過に転じ、直近では692人の転出超過となっている。

図表18 岡山市の純移動(県内、県外、全体)の推移



注：日本人のみ。データは前年10月～同年9月とする。

注：データは県内外への転出入のみとし、職権登録や職権削除、日本への帰化や日本人の国籍喪失は含めていない。

資料：岡山県「毎月流動人口調査」(ただし、2013(平成25)年以前は岡山市「岡山市の統計」)

年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
県内	1,223	1,375	1,577	1,073	1,480	1,032	665	819	752	654
県外	-593	-1,218	-530	-741	-819	-508	339	1,032	-45	-56
純移動	630	157	1,047	332	661	524	1,004	1,851	707	598

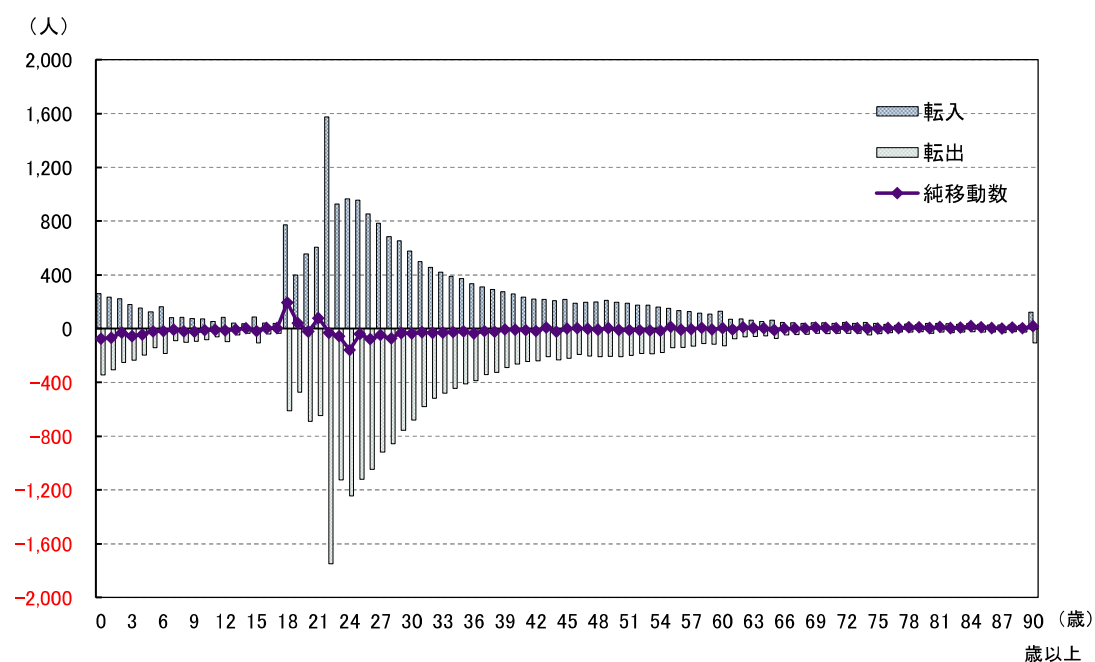
年	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
県内	852	545	842	910	1,052	1,073	502	555	565	980
県外	427	-159	-757	-1,052	-1,576	-477	-1,046	-1,366	-2,132	-1,672
純移動	1,279	386	85	-142	-524	596	-544	-811	-1,567	-692

②年齢階級別の純移動の推移

直近の岡山市の純移動の年齢階級別の状況をみると、大学等への進学の時
期に当たる18歳で純移動は大きくプラス(転入超過)となっているが、それ以
降マイナス傾向であり、特に24歳で大きくマイナス(転出超過)となり、その
後40歳頃までマイナスの傾向となっている。

図表19 純移動の年齢別状況(2022～2024年の平均)

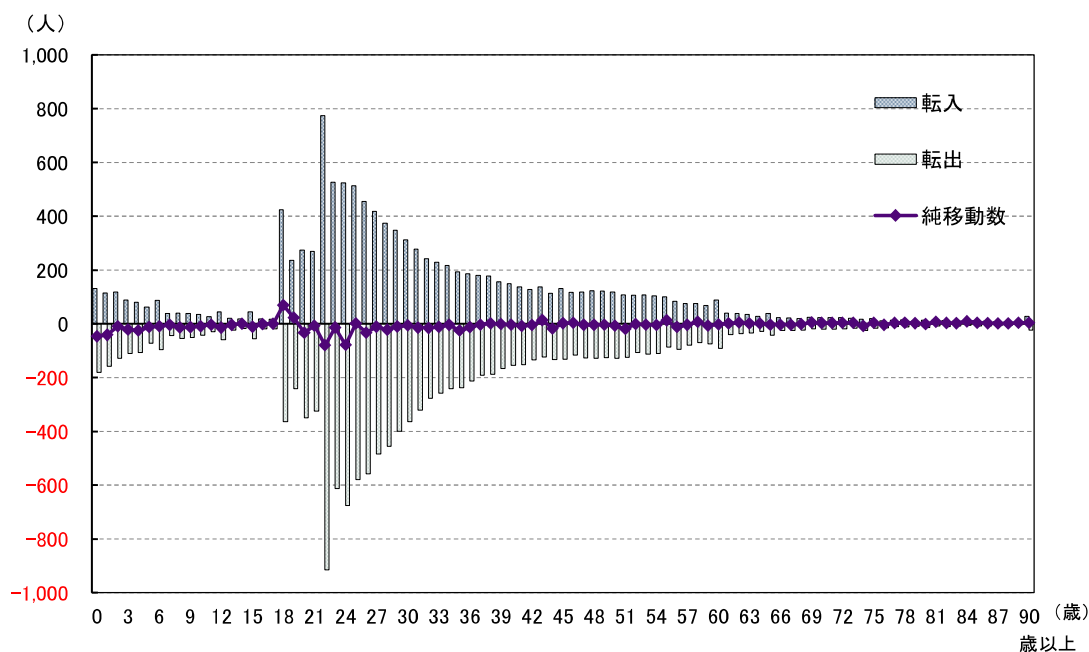
【全体】



注：純移動数は日本人のみ。
資料：住民基本台帳人口移動報告 年報

男女別にみると、男女とも18歳で純移動が大きくプラス(転入超過)となる傾向に違いはないが、男性の方が18歳でのプラス(転入超過)の幅が大きい。また、女性に比べ、男性の方が20歳代前半でのマイナス(転出超過)の幅が大きくなっている。

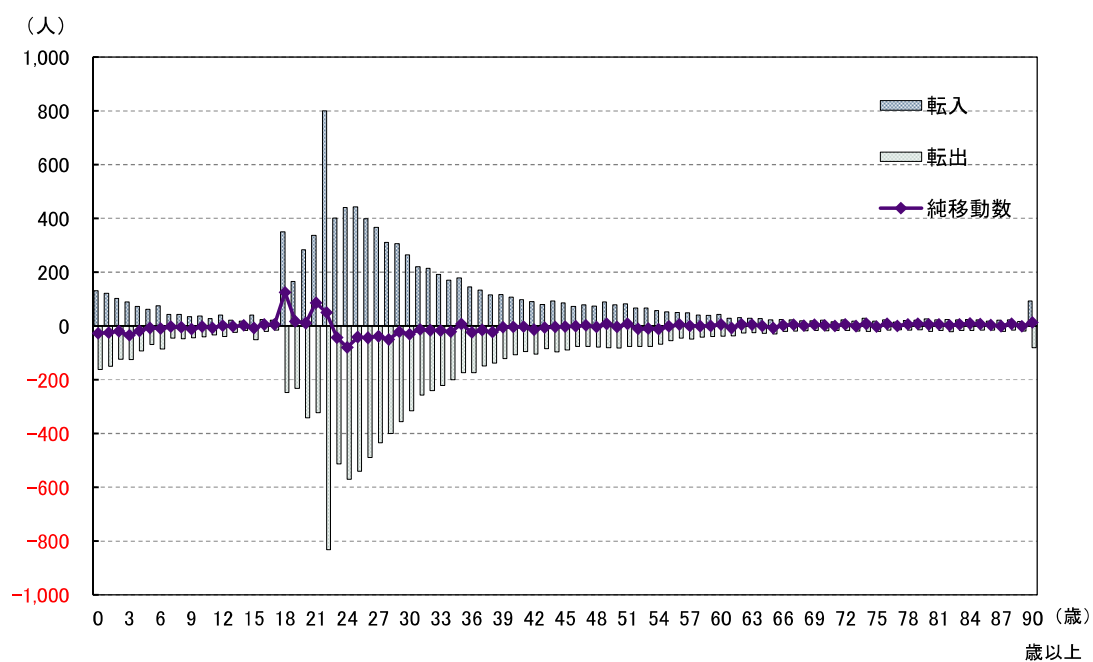
【男性】



注：純移動数は日本人のみ。

資料：住民基本台帳人口移動報告 年報

【女性】



注：純移動数は日本人のみ。

資料：住民基本台帳人口移動報告 年報

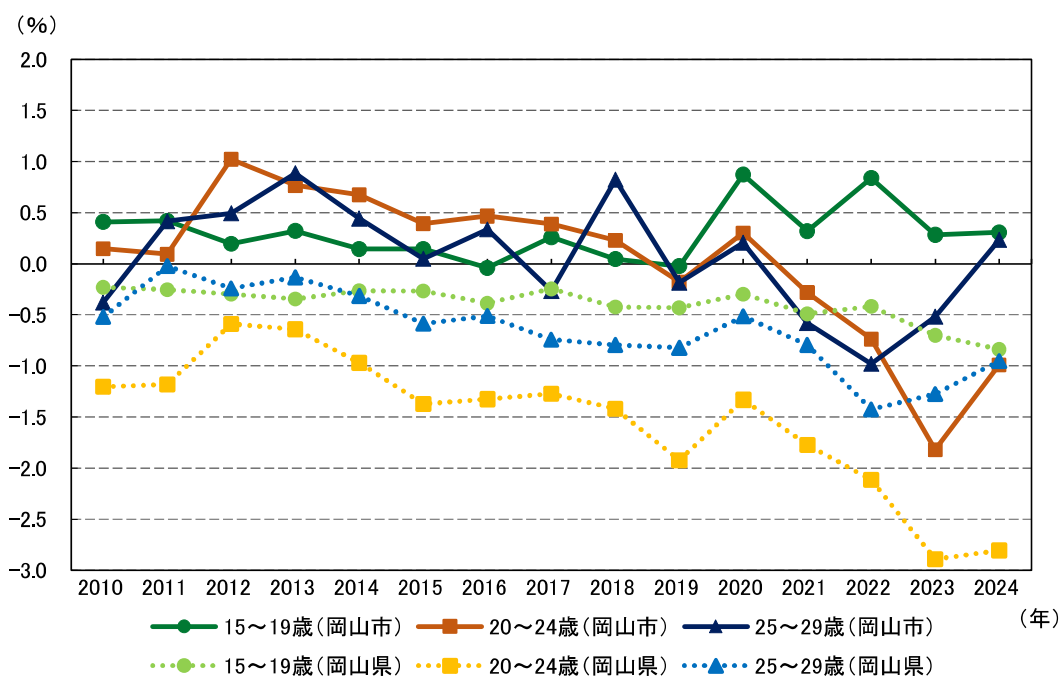
若年層の年齢階級別の転入超過率の推移を岡山県と比較した場合、岡山県は15～19歳の女性を除き、一貫してマイナス領域（転出超過）で推移しているが、岡山市は人口あたりの大学・短期大学数が多く、中枢拠点都市という特性を背景に、男女とも岡山県よりもプラス傾向（転入超過）で推移している。

岡山市の男性は、概ねプラス領域（転入超過）で推移してきたが、2021（令和3）年以降、20～24歳の年代がマイナス（転出超過）に転じている。女性は、男性よりもプラス傾向（転入超過）で推移してきたが、2020（令和2）年以降、25～29歳の年代がマイナス（転出超過）に転じており、20～24歳でも転入超過率の低下がみられる。

このように、特に20歳代でのマイナス傾向（転出超過）が強まっており、若年層の定着に向けた更なる対策が重要となっている。

図表20 年齢階級別転入超過率の推移

【男性】

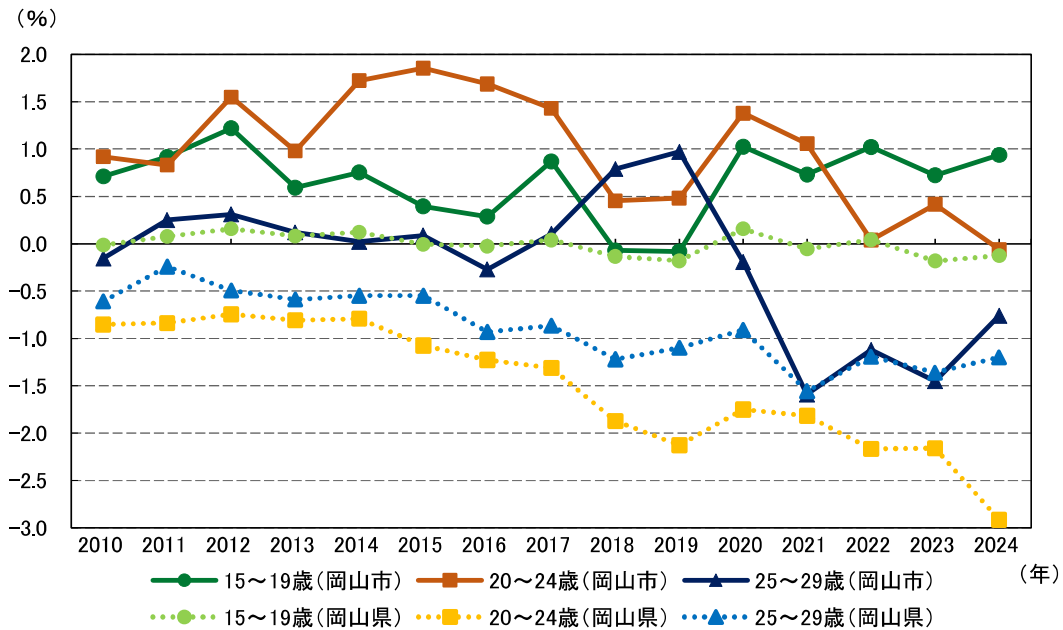


注：日本人のみ

資料：住民基本台帳人口移動報告 年報

住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数

【女性】



注：日本人のみ

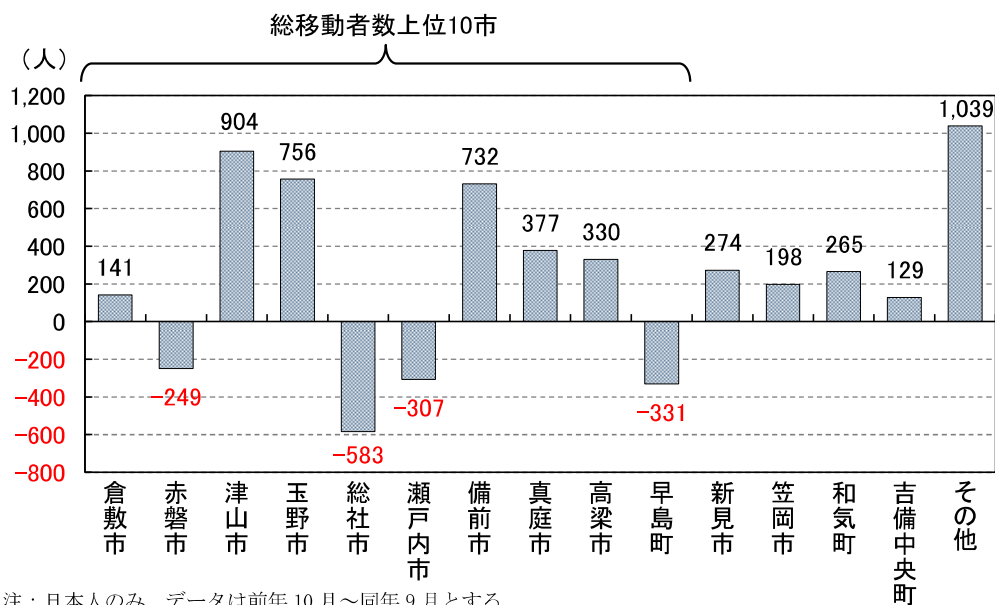
資料：住民基本台帳人口移動報告 年報

住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数

③県内外への純移動の状況

県内移動の状況をみると、県内は、ほとんどの市町村からの純移動がプラス(転入超過)となっている。市町村別では津山市、玉野市、備前市など広域から転入する一方、赤磐市、総社市、瀬戸内市、早島町へは転出超過となっている。

図表 2 1 県内市町村との純移動の状況(2020～2024 年の累計)

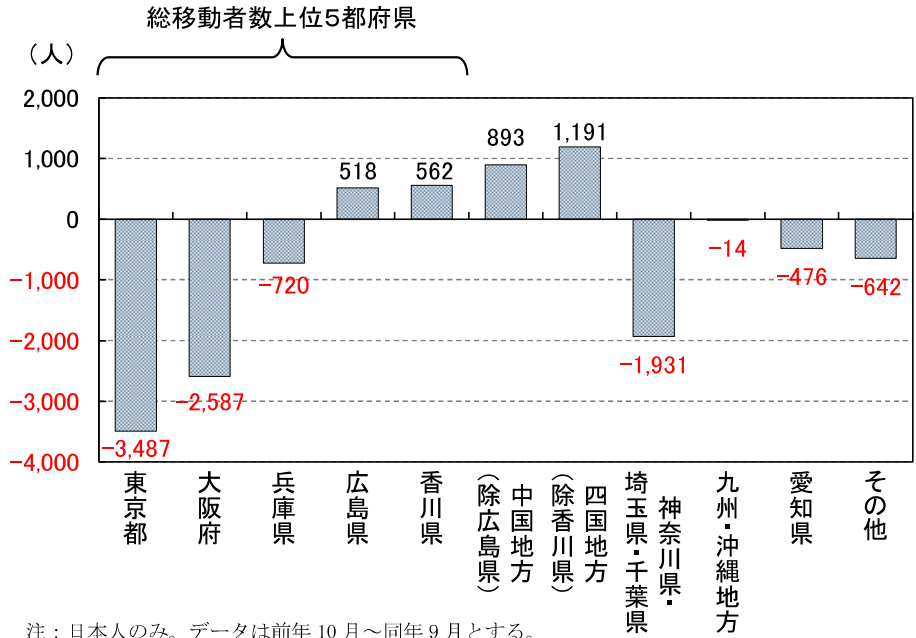


注：日本人のみ。データは前年10月～同年9月とする。

資料：岡山県「毎月流動人口調査」

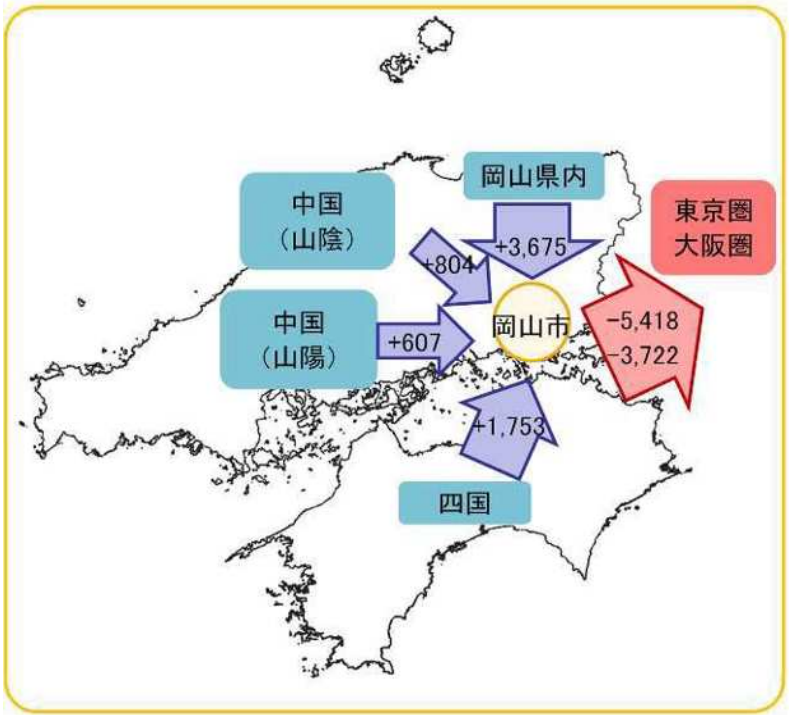
2020(令和2)年から2024(令和6)年において、県外転入・転出者の純移動の状況は、中国・四国地方からの純移動がプラス(転入超過)となっており、東京圏や大阪圏に対して、純移動がマイナス(転出超過)となっている。

図表2-2 県外都道府県との純移動の状況(2020～2024年の累計)



注：日本人のみ。データは前年10月～同年9月とする。
 東京圏とは、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県の合計。
 大阪圏とは、大阪府、兵庫県、京都府、奈良県の合計。
 資料：岡山県「毎月流動人口調査」

図表2-3 岡山市の人口移動の構図



注：日本人のみ。数値は2020(令和2)年～2024(令和6)年の純移動の累計
 東京圏とは、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県の合計。
 大阪圏とは、大阪府、兵庫県、京都府、奈良県の合計。
 資料：岡山県「毎月流動人口調査」

3－1－3 人口減少が与える影響

岡山市においては、令和2年国勢調査では過去最高の72万4千人となったが、近年は自然減が拡大しており、将来推計によると既に人口減少局面に突入しているものとみられる。

高齢者人口の増加は全国よりも緩やかと見込まれる一方で、合計特殊出生率は人口を維持する水準とは大きな隔たりがあり、生産年齢人口の減少に伴う、労働や地域活動の担い手不足による地域経済の縮小や地域コミュニティの機能低下等が懸念されるなど、今後の人口減少が地域に与える影響は少ない。

3-2 岡山市の人口の将来展望

3-2-1 めざすべき将来の方向の基礎となる市民の意識等

(1) 結婚・出産・子育てに関する市民意識

市内に居住する、0歳から小学校6年生までの児童がいる家庭の中から無作為に対象を選び実施した「子ども・子育て支援に関するアンケート調査(令和5年度)」の主な結果は、以下の通りである。

<主な結果>

- 岡山市の子育てのしやすさの程度について、「そう思う」(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)が57.2%、就学前児童で53.8%、小学校児童で60.2%、「そう思わない」(「そう思わない」+「どちらかという」と「そう思わない」)が41.6%、就学前児童で44.9%、小学校児童で38.5%となっている。
- 子育てしやすいまちにするために充実が必要だと思うこと(複数回答)については、「子育て世帯に対する経済的支援全般」が64.7%と最も高く、「仕事と子育ての両立支援」が59.9%、「子どもが遊ぶ環境」が59.1%と続いている。
就学前児童では「仕事と子育ての両立支援」と回答した割合が65.1%と最も高く、次いで「子育て世帯に対する経済的支援全般」(63.6%)となっている。
小学校児童では「子育て世帯に対する経済的支援全般」と回答した割合が66.0%と最も高く、次いで「子どもが遊ぶ環境」(57.3%)となっている。
- 母親の育児休業取得状況について、「取得した(取得中である)」が51.8%、「取得していない」が10.6%である。取得しなかった理由としては、「子育てや家事に専念するために退職した」が25.8%で最も高く、「仕事が忙しかった」が16.8%、「収入減となり、経済的に苦しくなる」「職場に育児休業の制度がなかった」がともに14.3%と続いている。職場への復帰状況については、78.4%が職場に復帰している。
父親の育児休業取得状況について、「取得した(取得中である)」が10.6%、「取得していない」が83.0%である。取得しなかった理由としては、「仕事が忙しかった」が44.2%と最も高い。

(調査概要)

- ・配 布 数：5,000通(回収率52.7%)
- ・回 収 数：2,633通
- ・調 査 方 法：郵送による配布・回収(インターネットによる回答を併用)
- ・調 査 期 間：令和6年1月23日～2月13日

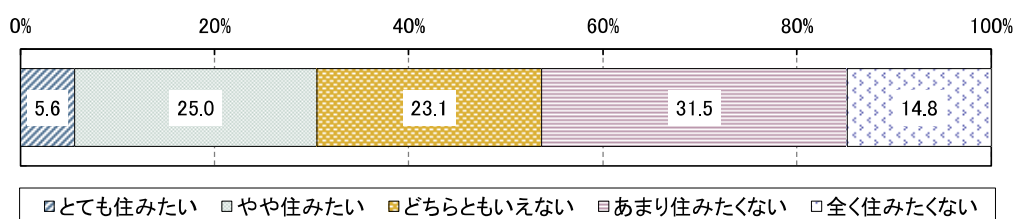
(2)居住地や仕事に関する学生アンケート

第3期総合戦略の策定に当たり、若者の考えや意見を戦略に取り入れるため、岡山市内の大学等に在籍する学生を対象に実施したWEBアンケートの主な結果は、以下の通りである。

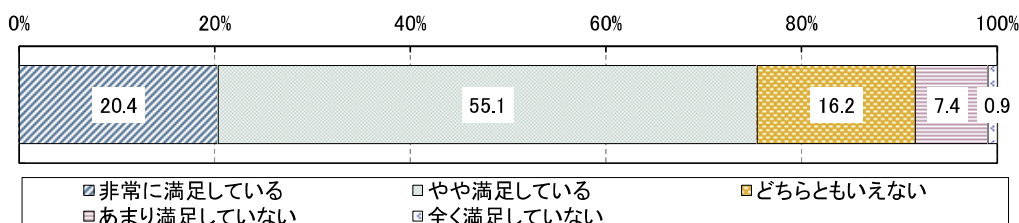
<主な結果>

- 東京圏などの大都市圏に「とても住みたい」「やや住みたい」と回答した割合は30.6%となっており、「あまり住みたくない」「全く住みたくない」と回答した割合（46.3%）より低い。また、岡山市での生活に「非常に満足している」「やや満足している」と回答した割合は、75.5%と非常に高い水準となっている。

図表24 東京などの大都市圏に住みたいか

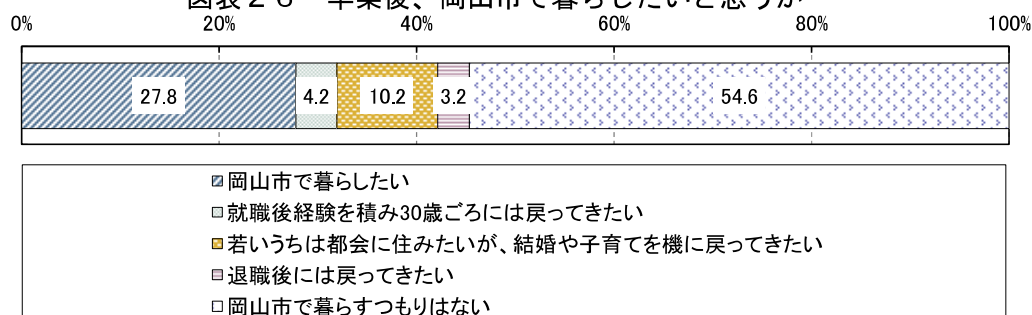


図表25 岡山市での生活に満足しているか

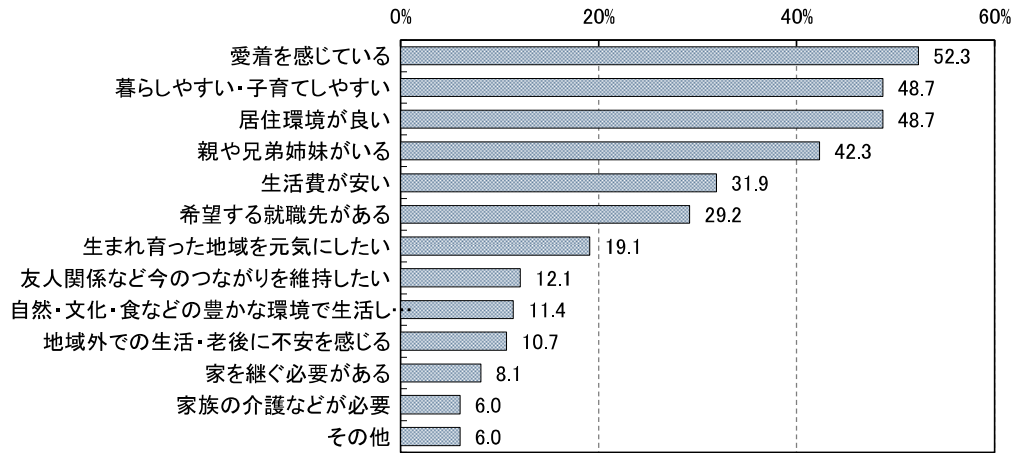


- 「卒業後も岡山市に暮らしたい」と回答した割合は27.8%、「卒業を機に一度は市外に出たいが、いずれは岡山市に戻ってきたい」と回答した割合は17.6%となっている。その理由として最も多かった意見は、「岡山市に愛着を感じている」であり、その他の理由としては、「暮らしやすい・子育てしやすい」「居住環境が良い」などが上位となっている。

図表26 卒業後、岡山市で暮らしたいと思うか

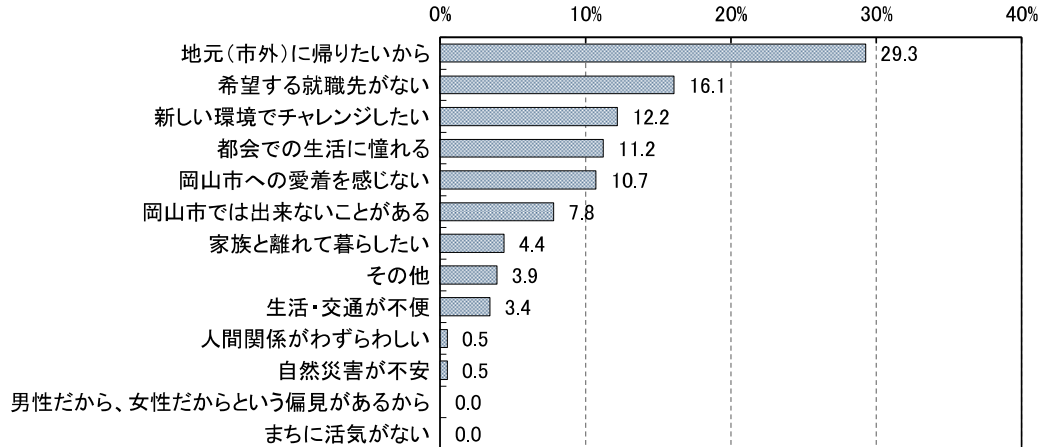


図表 2 7 卒業後、岡山市で暮らしたいと回答した理由



○ 「岡山市で暮らすつもりはない」と回答した割合は 54.6%となっているが、その理由として最も多いものは、「市外の地元に帰りたい」となっており、続いて「希望する就職先がない」、「新しい環境でチャレンジしたい」、「都会の生活に憧れる」の順となっている。

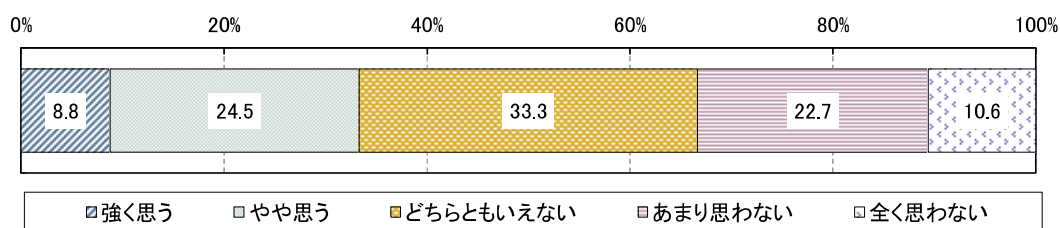
図表 2 8 卒業後、岡山市で暮らすつもりはないと回答した理由



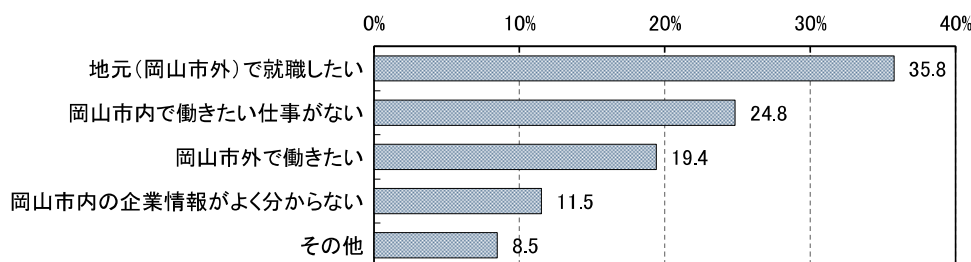
- 「希望する仕事をするには、東京などの大都市圏に住んだ方が良いと思うか」の問いに、「強く思う」「やや思う」と回答した割合は、33.3%となっており、「あまり思わない」「全く思わない」と回答した割合（33.3%）と拮抗している。

また、希望就職地として「岡山市以外」を選択した理由として最も多かったのが、「地元（岡山市外）で就職したい」であり、続いて「岡山市内で働きたい仕事がない」となっている。

図表 2 9 希望する仕事をするには、東京などの大都市圏に住んだ方が良いと思うか

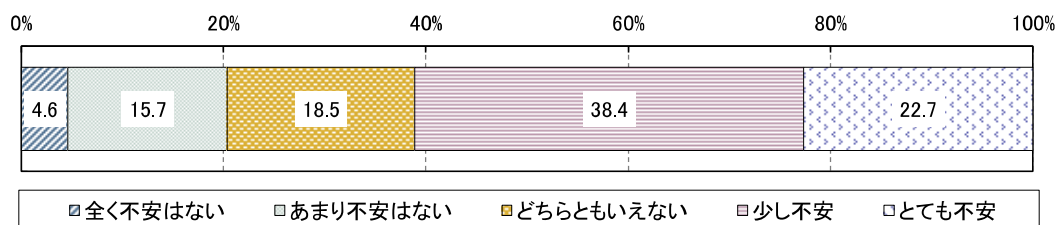


図表 3 0 希望就職地として「岡山市以外」を選択した理由

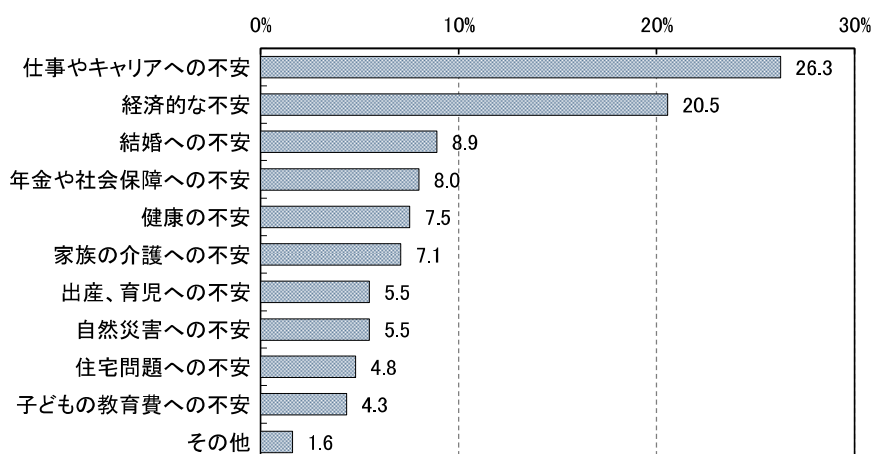


- 将来についてどう考えているかについては、全体の61.1%が「少し不安」「とても不安」と回答しており、その理由としては「仕事やキャリアへの不安」と「経済的な不安」と回答した件数が圧倒的に多くなっている。

図表 3 1 将来についてどう考えているか



図表 3 2 将来について「不安」と回答した理由



(調査概要)

- ・回収数：WEB回答 216 件
- ・調査方法：WEBでの回答受付
- ・調査期間：令和 7 年 9 月 22 日～12 月 15 日

3-2-2 岡山市人口の将来展望

(1) 将来人口推計

① 推計パターン

< 基本推計 >

- 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」による、2060(令和42)年までの長期推計。

※2055(令和37)年以降は、2050(令和32)年までの仮定等をもとに、機械的に延長したもの。

< 将来展望推計 >

- 岡山市の上記将来人口推計を基に、合計特殊出生率が2040(令和22)年に国の長期ビジョンで示されている国民希望出生率※1(1.8程度)まで向上し、2050(令和32)年には、人口置換水準※2と同程度の値である2.07程度が達成されるケースに置き換えた場合の2060(令和42)年までの長期推計。

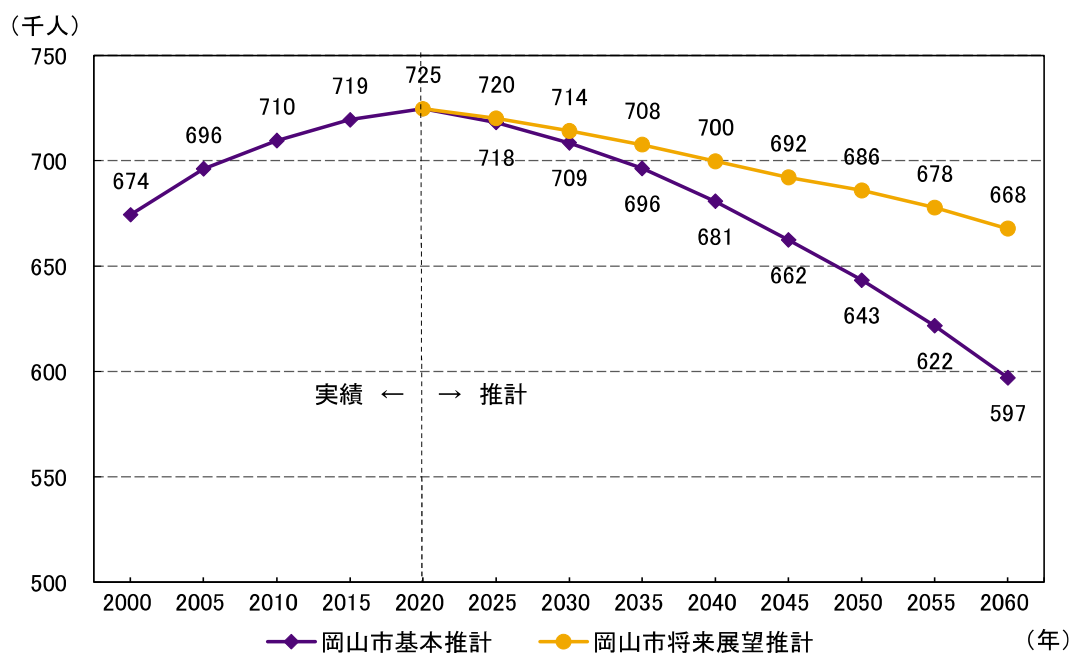
※1 国民希望出生率…「結婚した場合の希望子ども数」や「夫婦の予定子ども数」等の希望が叶うとした場合に想定される出生率。

※2 人口置換水準…人口が安定的に維持できる水準。

② 推計結果

上記基本推計によると、2060(令和42)年には59万7千人程度とすることが見込まれる。上記将来展望推計によると、国想定出生率が達成された場合、2020(令和2)年の72万5千人程度をピークに人口減少期に入り、2060(令和42)年には66万8千人程度とすることが見込まれる。

図表3-3 岡山市の将来人口推計



③人口の将来展望

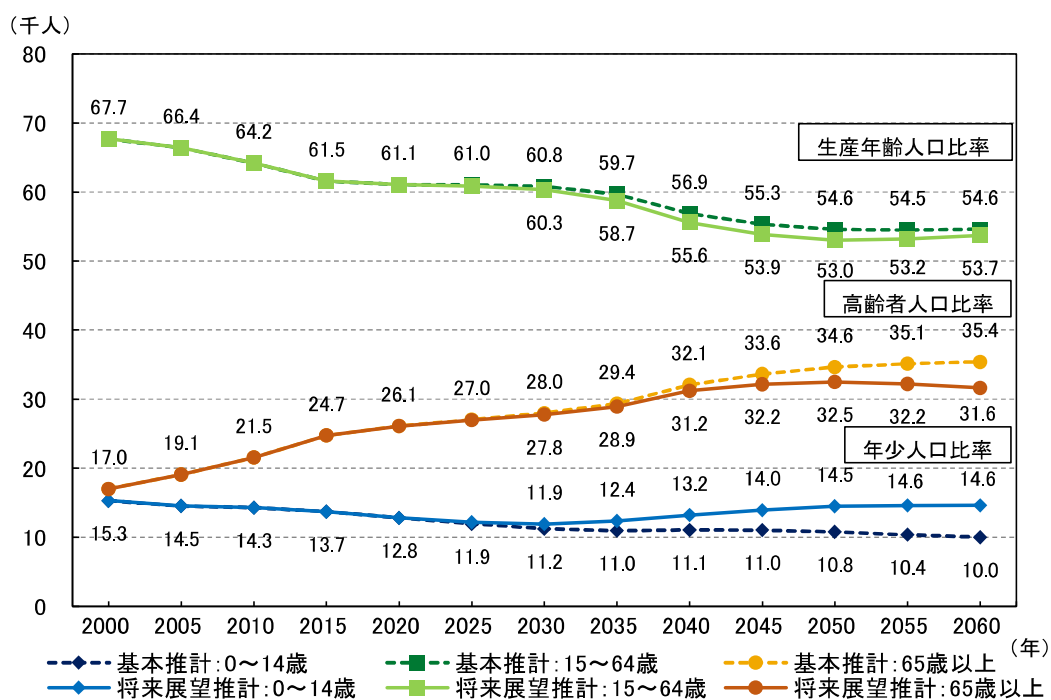
国想定出生率による人口推計(将来展望推計)を展望しつつ、第3期総合戦略を着実に実行することにより、人口減少傾向を和らげ、基本推計人口水準の引き上げを図る。

(2) 将来の年齢3区分別人口推計

①年齢3区分別人口比率

国想定出生率が達成された場合(将来展望推計)、年少人口比率は、2030(令和12)年の11.9%を底に下げ止まることが見込まれる。また、生産年齢人口比率は、2050(令和32)年の53.0%を底に下げ止まり、高齢者人口比率は、2040(令和22)年には市の総人口の3割を超えることが見込まれる。

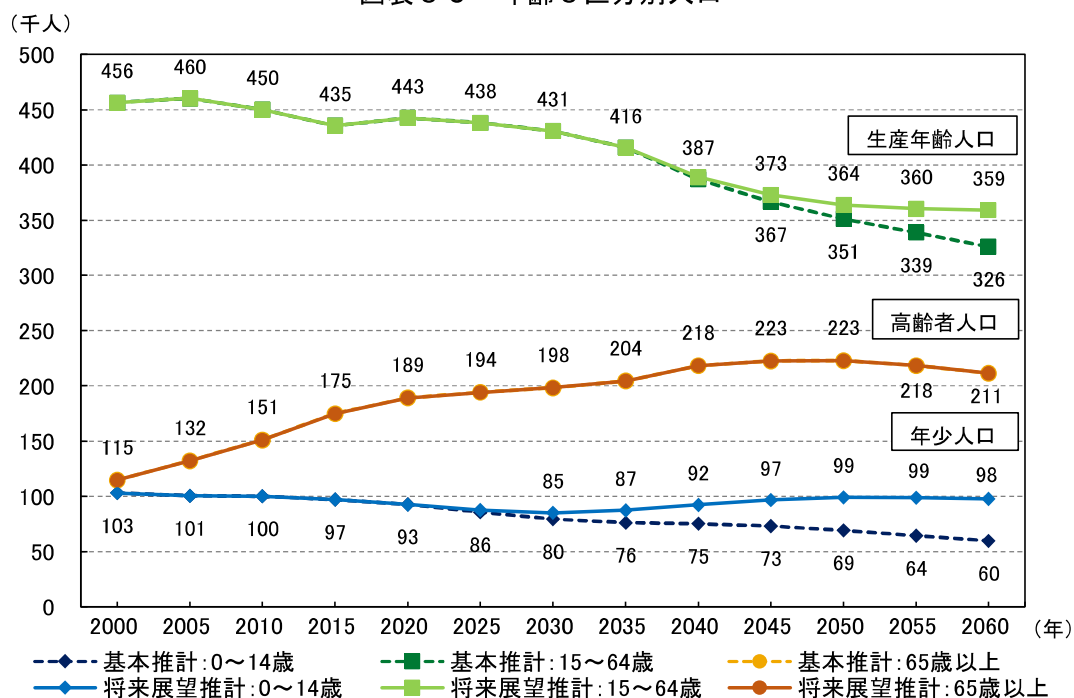
図表3-4 年齢3区分別人口比率



②年齢3区分別人口

国想定出生率が達成された場合(将来展望推計)、年少人口は2030(令和12)年の8万5千人を底に増加に転じることが見込まれる。また、生産年齢人口は減少を続け、2060(令和42)年には35万9千人となり、高齢者人口は2050(令和32)年の22万3千人をピークに減少に転じることが見込まれる。

図表35 年齢3区分別人口



注: 高齢者人口(65歳以上)は基本推計と将来展望推計は一致する。